

介護福祉士
国家資格取得に向けた

留学生指導に ついての ガイドライン



令和3年3月

かい よろ きょう
介養協

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

内容

はじめに.....	5
ガイドラインの使い方.....	6
I. 国家試験の得点別に見た留学生の特徴と対応.....	7
1. 国家試験の科目別に見た留学生の特徴.....	7
2. 国家試験の問題分類別に見た留学生の特徴.....	9
(1) 国家試験の問題分類.....	9
(2) 問題分類別に見た留学生の特徴.....	10
3. 国家試験の日本語の理解しにくいポイント別に見た留学生の特徴.....	11
(1) 国家試験に登場する日本語で留学生が難しさを感じる点の分類.....	11
(2) 日本語で留学生が難しさを感じる点の分類別に見た留学生の特徴.....	12
4. 試験結果から見た留学生の特徴と対応.....	14
(1) 試験の得点別に見た留学生の特徴.....	14
(2) 留学生の学習習得段階に応じた養成校の対応.....	17
II. 国家試験に向けて養成校に求められる対応.....	18
1. 留学生の学習支援.....	18
(1) 入学選抜試験での対応.....	18
(2) 養成校での日本語指導.....	20
一口メモ：計画的に学習することができる学生への目配り.....	21
(3) 国家試験対策と絡めた介護の授業.....	22
一口メモ：授業の満足度と理解度の違い.....	23
一口メモ：各養成校の国家試験対策.....	25
(4) 介護施設・事業所と連携した留学生の指導.....	32
一口メモ：養成校で学んだ技術とアルバイトや実習先での技術の違い.....	32
(5) 介護学習を行う上でのモチベーション管理.....	33
一口メモ：介護を魅力的に感じてもらえるような工夫.....	33
(6) 卒後支援／卒業生との交流.....	33
2. 留学生の学習環境の整備.....	34
(1) 留学生が抱える生活全般の問題について.....	34
一口メモ：奨学金制度の活用.....	36
(2) 生活全般についてのサポートについて.....	37
3. 養成校での留学生指導についてのまとめ.....	38
一口メモ：高得点の養成校の特徴.....	38

Ⅲ. 国家試験で使用される日本語を理解する	39
1. 国家試験で登場する日本語を理解する.....	39
(1) 国家試験の日本語をよく見てみよう	39
(2) 国家試験の日本語の何が難しいのか.....	39
(3) 語彙が難しいのはなぜか	40
(4) 文法について.....	40
2. 介護福祉士国家試験に必要な日本語力.....	41
(1) 介護福祉士国家試験は日本語の試験ではない	41
(2) 類推力のために必要となる「漢字」、「漢字語彙」、「読解力」	41
(3) 読解力.....	42
3. 介護専門学習をしながら、どう国家試験に対応できる日本語力をつけていくか	42
(1) 漢字学習・漢字語彙学習	42
(2) 音読の勧め	43
(3) 国家試験の問題文の読み取り方	44
4. まとめ：「国家試験で使用される日本語を理解する」とは.....	46
巻末参照編. 令和元年度国家試験 誤回答の分析	47
1. 本資料の概要	47
2. 本資料の活用方法.....	47
(1) はじめに	47
(2) 誤回答の特徴（詳細記載版）	50

はじめに

わが国においては毎年要介護者が増加し、これに伴う介護従事者の需要は令和7年度（2025年度）までに約245万人と推計されています。またこれと同時に、介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に伴い質の高い介護が求められており、優秀な介護人材の確保は喫緊の課題となっています。

これまで介護人材は、専門性が不明確でそれぞれの役割が混在している「まんじゅう型」の状態にあり、今後は、裾野を広げつつ専門性の向上や機能分化を実現する「富士山型」へと構造転換する必要があるとされています。そのために、人材の層に応じたきめ細かな方策を講じることとされており、介護の専門人材である介護福祉士には、介護業務のマネジメントや、現場でのチームリーダー等のスペシャリストとしてのキャリアを形成することが望まれています。

介護福祉士の養成については、平成29年（2017年）9月1日から在留資格「介護」が創設されたことにより、介護福祉士養成施設への外国人留学生（以下、留学生という）の入学人数は近年急激に増加しており、令和2年度の入学人数は2,395人となっています。

令和2年3月卒業の留学生836人のうち、97.6%が日本で介護施設等の福祉分野に就職している状況にあり、養成校で介護を専門的に学んだ者として、将来の介護業界における中核的な役割を担う介護人材として大いに期待されているところです。

しかし、介護福祉士国家試験における留学生の合格率は39.2%（令和元年度）と大変低く、6割以上の留学生が国家試験に合格できていない状況です。

このような中で、令和2年度（2020年度）に厚生労働省が補助事業として公募した「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業」について、当協会の実施計画が採択され、この事業を実施することとなりました。

当協会では、この事業を実施するにあたり、検討委員会及び作業部会を設置し、①試行試験の実施、②留学生・介護福祉士養成施設へのアンケート調査を行い、③本ガイドラインを作成しました。試行試験及びアンケートにご協力いただいた皆様、検討委員会委員及び作業部会委員の皆様方には感謝申し上げます。

留学生をはじめ外国人介護人材の質の向上が図れるよう、介護福祉士養成施設はもとより関係する方々に本ガイドラインを活用いただければまことに幸甚に存じます。

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

ガイドラインの使い方

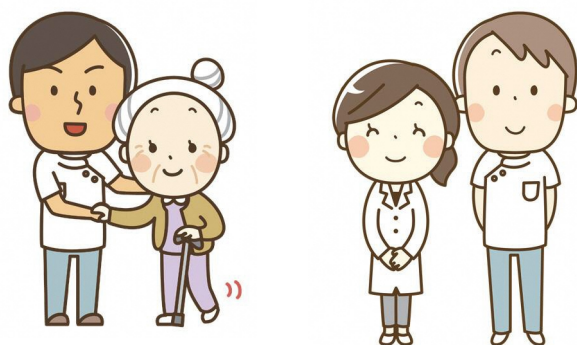
介護福祉士資格の取得は、介護ニーズの多様化・高度化の進展に対応できる資質を担保し、社会的な信頼と評価を高める観点から、一定の教育課程を経て受験資格を得た上で、国家試験により修得状況を確認するという、資格取得の一元化が図られています。

介護福祉士養成施設においては、社会の要請に応えるためにも、質の高い介護福祉士を養成する役割が期待されています。今回のガイドライン作成においては、わが国で介護を学ぶ留学生の国家資格取得に向け、どのように指導を進めるかに焦点を当てました。

母国での介護や看護の勉強や仕事の経験の有無や、日本語能力や漢字を知っているか、また、育った国の環境や文化など、留学生の状況は様々であり、学習指導の方法は個々の留学生によって異なります。

このガイドライン作成にあたって、①留学生に、第32回介護福祉士国家試験の総ふりがな付き問題、母国語による問題文を解答してもらった上で、誤答理由を調査した結果、②養成校や留学生のアンケート調査の回答内容、③当協会が実施した学力評価試験の結果、等を留学生ごとに①②③を紐づけるなどして分析し、外国人介護人材の教育に豊富な知見を持つ教員へのヒアリング等を踏まえ、検討委員会及び作業部会で検討いたしました。

ガイドラインは、留学生の状況や科目ごとの指導のポイント等、項目別に構成しています。これらの学習指導のポイント等は、留学生に限ってではなく、日本人学生にも活用できるものです。また、各養成校の取り組みなどを「一口メモ」として紹介しています。留学生への介護に関する学習指導にあたって、本ガイドラインを参考にいただければ幸いです。



I. 国家試験の得点別に見た留学生の特徴と対応

この章では、当協会が行った各種試験、調査の結果をもとに、国家試験における留学生の回答や正答の特性を分類別に記載しています。各養成校におかれましては、国家試験の指導を行う際の参考にしていただければと考えます。

1. 国家試験の科目別に見た留学生の特徴



留学生指導のポイント

- Point-1** 日本人学生のほとんどが正答する等、押さえておくべき科目（「人間の尊厳と自立」、「人間関係とコミュニケーション」、「生活支援技術」等）は、漏れなく得点できるようになるよう指導していく。
- Point-2** 留学生が苦手とする科目（「社会の理解」、「障害の理解」、「こころとからだのしくみ」、「総合問題」等）については、知識の底上げとあわせて集中的な試験問題対策を行う。

日本人学生および留学生の複数の国家試験のデータの得点率を科目別に整理したところ、「社会の理解」、「障害の理解」、「こころとからだのしくみ」、「総合問題」は、日本人、留学生ともに得点率が低いことがわかりました。全体としては日本人と留学生の得点傾向は変わりませんが、「人間関係とコミュニケーション」、「介護過程」等は日本人学生が9割程度得点できている一方、留学生の得点率が低く、押さえておくべき問題を落としていくことがうかがえます。

図表：各試験の科目別得点率一覧（高数値が赤、低数値が青）

領域	科目群	R1国家試験			R2学力評価試験	
		日本人(※1)	留学生(※2)	留学生(※3)	日本人(※4)	留学生(※5)
人間と社会	人間の尊厳と自立	92.9%	79.0%	64.8%	89.9%	67.4%
	人間関係とコミュニケーション	88.0%	76.7%	65.3%	84.1%	52.7%
	社会の理解	51.7%	40.0%	47.7%	49.5%	30.5%
介護	介護の基本	76.2%	67.3%	55.5%	57.6%	39.6%
	コミュニケーション技術	73.5%	66.4%	53.9%	74.4%	42.3%
	生活支援技術	82.8%	65.6%	52.0%	73.9%	45.8%
	介護過程	91.0%	67.0%	54.1%	69.0%	40.2%
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	76.9%	60.9%	55.2%	53.9%	35.6%
	認知症の理解	76.8%	59.4%	49.6%	69.3%	47.4%
	障害の理解	59.4%	47.7%	44.4%	68.9%	43.6%
	こころとからだのしくみ	65.5%	49.6%	45.4%	63.4%	42.5%
医療的ケア	医療的ケア	92.4%	76.7%	62.9%	67.4%	47.8%
総合問題	総合問題	62.5%	49.9%	43.5%	49.4%	33.4%

出典：試行試験・学力評価試験等 調査結果 報告書(令和2年度 当協会作成)

- ※ 1 R1 年度卒業日本人高校生の国家試験受験時データ（文部科学省提供）
- ※ 2 R1 年度卒業留学生の国家試験受験時データ
- ※ 3 R2 年度卒業予定留学生の試行試験（R2.9-10月実施）データ
- ※ 4 R2 年度卒業予定日本人学生の学力評価試験（R2.11月実施）データ
- ※ 5 R2 年度卒業予定留学生の学力評価試験（R2.11月実施）データ

また、学力評価試験の分析結果をもとに、どの科目の問題ができていたら留学生の合計得点が高いか、どの科目の問題ができていないと低得点となるかの傾向を調べた結果、以下のような結果となりました。

図表：12科目による留学生の学力評価試験点数高／低得点層の特徴

得点層	学力評価試験点数 (125点満点)	特徴
高得点層	平均 87.0 点	・「生活支援技術」等、日本人学生の得点率が高い科目の 正答率が高い ・「こことからだのしくみ」、「認知症の理解」等、日本人学生の得点率が低い科目においても 正答率は低くない
中間層	平均 57.8 点	・「生活支援技術」等、日本人学生の得点率が高い科目の 正答率が高い ・「こことからだのしくみ」等、日本人学生の得点率が低い科目においては、 あまり正答率は高くない
低得点層	平均 32.1 点	・「生活支援技術」等、日本人学生の得点率が高い科目の 正答率が低い ・「こことからだのしくみ」、「認知症の理解」等、日本人学生の得点率が低い科目においては、 正答率が低い

出典：試行試験・学力評価試験等 調査結果 報告書(令和2年度 当協会作成)
より当協会にて取りまとめた

これらの結果から類推されることとして、125点満点中80点以上（ここで分類すると高得点層に該当）の合格ラインを獲得するためには、「生活支援技術」等の、確実に正答すべき問題を落とさないことが大前提としてあり、その上で、日本人学生、留学生ともに得点率が低い「こことからだのしくみ」等の問題も、一定程度以上は得点できているということです。

一方、低得点層をみると、高得点・中得点層が正答している「生活支援技術」等も正答率が低く、平均点が32.1点と全体を通して得点ができていません。

このため、各養成校では、**日本人学生のほとんどが正答できている科目（問題）は確実に正答できるように指導する Point-1**とともに、**留学生が不得意と思われる科目（「社会の理解」、「障害の理解」、「こことからだのしくみ」、「総合問題」等）については知識の底上げや集中的な試験対策を行う必要 Point-2**があります。



2. 国家試験の問題分類別に見た留学生の特徴



留学生指導のポイント

Point-1 介護・医療の基本的な用語とその意味については徹底して理解を促す。

Point-2 実習や介護のアルバイト等留学生の実体験を各科目の学びと統合することで理解を深める。

当協会が独自に国家試験問題の分類を行った上で、どの問題に正答していたら留学生の合計得点が高いか、逆にどの問題に正答していないと低得点となるかを調べた結果、以下のような結果となりました。

(1) 国家試験の問題分類

問題分類については、以下のように分類しました。

図表：国家試験の問題分類

国家試験問題分類	具体的な問題内容
医療・介護の言葉の理解を問う問題	<ul style="list-style-type: none">・ 文言の理解そのものを問う問題・ 文言を理解できないと回答できない問題
病気や障害などの理解を問う問題	<ul style="list-style-type: none">・ 疾病の状態や障害の内容等を理解していないと回答できない問題
介護現場で起きることの理解を問う問題	<ul style="list-style-type: none">・ 介護現場で一般的に起こりうる事象を理解していないと回答できない問題
介護を必要とする人についての理解	<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者や障がい者に起こりうることを理解していないと回答できない問題
介護のやり方理解を問う問題	<ul style="list-style-type: none">・ 介護技術の方法を理解していないと回答できない問題
介護制度、サービスの理解を問う問題	<ul style="list-style-type: none">・ 介護制度、サービスを理解していないと回答できない問題

(2) 問題分類別に見た留学生の特徴

結果は以下の通りです。

図表：国家試験の問題分類による留学生の学力評価試験点数高／低得点層の特徴

得点層	学力評価試験点数 (125点満点)	特徴
高得点層	平均 84.1 点	・「医療・介護の言葉の理解を問う問題」の 正答率が高い ・「介護のやり方理解を問う問題」の 正答率が高い
低得点層	平均 32.8 点	・「介護のやり方理解を問う問題」の 正答率が低い

出典：試行試験・学力評価試験等 調査結果 報告書(令和2年度 当協会作成)
より当協会にて取りまとめた

※ 分析の結果、中間得点層は存在せず、高得点層と低得点層にわかれてきました

これらの結果から類推されることとして、125点満点中80点以上（ここで分類すると高得点層に該当）の合格ラインを獲得するためには、「医療・介護の言葉の理解を問う問題」や、実習や介護のアルバイト先でも学ぶことができる「介護のやり方理解を問う問題」を確実に正答していることが必要ということです。

一方、低得点層をみると、「介護のやり方理解を問う問題」の正答率が低く、養成校の勉強に加え、実習や介護のアルバイトでも理解を深められる項目も正答できていないことがわかります。

このため、各養成校では、**介護・医療の基本的な用語とその意味については徹底して対策していくことが必要です。** **Point-1** また、これらの理解がなければ、「介護の方法を問う問題」や事例問題等に解答することも難しくなります。**実習や介護のアルバイト等、実体験を通じた介護の複合的な学びによって理解が深まることもある一方で、養成校内で学んだ介護の方法と異なる等ことによって留学生が混乱することもあります。そのため、進捗を確認し、各科目の学びと統合することが必要です** **Point-2。**

3. 国家試験の日本語の理解しにくいポイント別に見た留学生の特徴



留学生指導のポイント

Point-1 国家試験に頻出する語彙を中心に、特に語彙の理解について学習漏れがないよう、意識して理解度確認／指導していく。

Point-2 試験問題を読むことに対する苦手意識をなくせるよう、多くの試験問題に触れ、たくさん問題を解く機会を作る。

「介護の日本語」にかかる先行研究をふまえ、介護福祉士国家試験で使用される日本語のうち、留学生の課題となることが想定される日本語の難しさを13区分に整理し、どの分類が登場する問題に正答／誤答していたら留学生の合計得点が高いか／低いかを調べた結果、以下のような結果となりました。

(1) 国家試験に登場する日本語で留学生が難しさを感じる点の分類

先行研究の分析結果による日本語の難しさ13区分は以下のとおりです。

図表：国家試験の日本語の難しさ分類

難しさを感じる日本語の分類		内容
大項目	小項目	
試験問題の文意のわかりにくさ	長い文、複雑な文による難しさ	・ 1文が長いなど、構造が複雑であるケース
	受身形の使用による難しさ	・ 受身形が使用されているケース 【例】緩和された、限定されている、障害されやすい、断られた、適用される 等
	否定表現による難しさ	・ 文章中に否定表現が使用されている 【例】加入している者は～することはない、～でなければ行うことができない 等
	主語が表示されない文による難しさ	・ 1題の問題の中に複数の文が含まれていたり、複数の人物が出ているのに主語が示されないケース
試験問題の用語のわかりにくさ	読み方の揺れによる難しさ	・ 同様の漢字で別の読み方があるケース 【例】ウヘンマヒ／ミギカタマヒ、ケンソク／ケンガワ 等
	表記の揺れによる難しさ	・ 同一表現で別表記も存在するケース 【例】続柄／続き柄、かぶり上衣／かぶり上着、排泄／排せつ 等
	難解な漢語の使用による難しさ	・ 語彙自体が難しい漢字で表現されているケース 【例】骨粗鬆症、欠伸 等
	外来語／カタカナ語による難しさ	・ 外来語やカタカナ語が使用されているケース 【例】ペースメーカー、ミトン、ケアマネジャー、カンファレンス、カテテル 等

難しさを感じる日本語の分類		内容
大項目	小項目	
試験問題の用語のわかりにくさ (続き)	多義語による難しさ	・ 多義語が使用されているケース 【例】いどう（移動、異同、異動）、 しこう（嗜好、思考、志向、至高、歯垢） 等
	類義語による難しさ	・ 類義語が使用されているケース 【例】嘔吐物／吐物、内服／服用／服薬、 舌下剤／舌下錠、居宅介護／在宅介護 等
	複合語による難しさ	・ 2つ以上の意味のある言葉が重なって複合語として表記があるケース 【例】傾眠状態、意思伝達
	省略語による難しさ	・ 省略して表記があるケース 【例】人口 10 万対→人口 10 万人に対して、 原則黄色→原則として黄色、 咀嚼力→咀嚼能力 等
	長い漢字列による難しさ	・ 漢字の組み合わせで長い語彙になっているケース 【例】認知症対応型共同生活介護事業所、 全国健康保険協会管掌健康保険 等

（2）日本語で留学生が難しさを感じる点の分類別に見た留学生の特徴

結果は以下の通りです。

図表：日本語で留学生が難しさを感じる点の分類による留学生の学力評価試験点数高／低得点層の特徴

得点層	学力評価試験点数 (125 点満点)	特徴
高得点層	平均 87.9 点	・ 「難解な漢語の使用による難しさ」に該当する問題の 正答率が高い ・ 「複合語による難しさ」に該当する問題の 正答率が高い
中間層	平均 56.4 点	・ 「難解な漢語の使用による難しさ」に該当する問題の 正答率が高い ・ 「複合語による難しさ」に該当する問題の 正答率が低い
低得点層	平均 39.5 点	・ 「難解な漢語の使用による難しさ」に該当する問題の 正答率が低い ・ 「長い文、複雑な文による難しさ」に該当する問題の 正答率が低い

出典：試行試験・学力評価試験等 調査結果 報告書(令和 2 年度 当協会作成)より当協会にて取りまとめた

これらの結果から類推されることとして、125 点満点中 80 点以上（ここで分類すると高得点層に該当）の合格ラインを獲得するためには、「難解な漢語の使用による難しさ」、「複合語による難しさ」に該当する問題の正答率が高い等、語彙を理解して回答できている必要があることがわかります。

また、中間層においては、「難解な漢語の使用による難しさ」に該当する問題において得点できていたものの、「複合語による難しさ」に該当する問題については得点できていません。「複合語」については、後述「Ⅲ. 国家試験で使用される日本語を理解する」にも記載

していますが、意味を重ね合わせたり、知らない漢字があったら類推して意味を理解する等の能力が必要となるため、これらの訓練を行う必要がある（P41「（2）類推力のために必要となる「漢字」、「漢字語彙」、「読解力」」参照）ことがうかがえます。

一方、低得点層をみると、「難解な漢語の使用による難しさ」の正答率が低いほか、「長い文、複雑な文による難しさ」の正答率も低く、語彙について理解ができないだけでなく、日本語の文章を読む、ということに関して苦手意識を持っている特徴がみてとれます。

このため、各養成校では、国家試験に頻出する語彙を中心に、特に語彙の理解について留学生の学習漏れがないよう、意識して常日頃から理解度の確認をしたり、指導していく必要がある Point-1とともに、国家試験の文章を読んで回答するといった、試験問題を読むことに対する苦手意識をなくせるよう、とにかく試験問題に触れ、たくさん解いてもらうことが必要である Point-2 といえます。



4. 試験結果から見た留学生の特徴と対応

ここでは、学力評価試験の分析結果、および当協会が別途行った養成校の教員・留学生に対するヒアリング結果をもとに、(1)にて、得点が高かった留学生、中間的な得点の留学生、得点が低かった留学生を分け、それぞれ、どのような特性を持つのかを示し、(2)で、それらの特性に応じた留学生への養成校における対応(参考)を示しています。

あくまで、当協会が行った調査上での統計情報であるため、全国の養成校に属する留学生全てがこのケースに当てはまるわけではありませんが、留学生の指導の際の参考にいただきたいと考えます。

(1) 試験の得点別に見た留学生の特徴



高得点の留学生の特徴

▶ 学力評価試験で 80 点以上獲得した層

属性項目	属性内容
国家試験への合格意欲	必ず合格したいと望んでいる
自宅での勉強時間	多くはない
養成校出の補講の参加頻度	対象の補講は参加する程度(対象外となることも有)
養成校の授業の理解度	高い
養成校の授業の満足度	やや高い
日本語理解能力	N2 以上
最終学歴	大卒以上
資格保持の状況	看護師資格保持

- 日本語能力が高く、国家試験への合格意欲も高い留学生です。
- 日本語能力試験 N2 以上を取得しており、基礎的な学習能力があり、最終学歴も大卒以上等、母国でもしっかり勉強してきた経験があります。
- 看護師資格を保持しているなど、疾病や障害等の理解がある留学生もいます。
- 基礎学力がある上、理解能力も高いことが想定され、勉強時間が多くなくても、合格ラインにたどりつきます。定期テスト等の点数も良いため、補講も対象になっていません。
- 授業の理解度が高く、理解度が低い学生に合わせた授業レベルの場合、簡単すぎて満足できない、という方も一部存在します。

※ 学力評価試験の分析結果、および当協会が別途行った養成校の教員・留学生に対するヒアリング結果より作成



中間層の留学生の特徴

▶ 学力評価試験で 60 点程度獲得した層

属性項目	属性内容
国家試験への合格意欲	必ず合格したいと望んでいる
自宅での勉強時間	授業日は 1 時間以上、週末は 3 時間以上勉強している
養成校出の補講の参加頻度	基本的には全件参加している
養成校の授業の理解度	やや高い
養成校の授業の満足度	やや高い
日本語理解能力	N3 程度
最終学歴	大卒未満
資格保持の状況	特に資格なし

- 日本語能力は N3 程度ですが、自分でもしっかり勉強している留学生です。
- 学歴は大卒未満が多く、日本語能力試験未受験の場合もあるため、学習能力は留学生によって差があります。
- 母国では特に介護や看護にかかわってきたわけではないため、介護の勉強については初めてのことばかりです。ただ、その分、授業日も、授業日以外でも自分で勉強しています。
- 養成校の授業の理解度はやや高く、自分で勉強して、授業にはついていっているようです。
- 国家試験の合格意欲が高いため、補講にもいつも自ら積極的に参加しており、授業の満足度も高い結果となっています。

※ 学力評価試験の分析結果、および当協会が別途行った養成校の教員・留学生に対するヒアリング結果より作成



低得点の留学生の特徴

▶ 学力評価試験で 40 点未満の層

属性項目	属性内容
国家試験への合格意欲	合格への意欲は低い
自宅での勉強時間	授業日は 1 時間以上、週末は 3 時間以上勉強している
養成校出の補講の参加頻度	基本的には全件参加している
養成校の授業の理解度	低い
養成校の授業の満足度	高い
日本語理解能力	N3 以下
最終学歴	大卒未満
資格保持の状況	特に資格なし

- 日本語能力は N3 以下、学歴は大卒未満が多く、母国では勉強の習慣が少なかった方も多く、勉強方法がわからないという方が散見されます。
- 母国では特に介護や看護にかかわってきたわけではないため、介護の勉強については初めてのことばかりです。その分、授業日も授業日以外も自分でしっかり勉強し、補講にも参加していますが、頑張っても授業が理解できないことが多くあるようです。
- ただし、一生懸命勉強していることや教員のサポートを受けられていることから、授業の満足度は高い結果となっています。

※ 学力評価試験の分析結果、および当協会が別途行った養成校の教員・留学生に対するヒアリング結果より作成

(2) 留学生の学習習得段階に応じた養成校の対応

留学生の学習習得段階は様々であり、それぞれの学習の進捗や理解度に合った指導が必要です。ここでは、留学生の学習習得段階に応じ、国家資格取得のために各養成校でどのように対応すべきか、という点について、モデル的な例を示すこととします。実際は、ここで示したものをそのまま適用すればよいのではなく、留学生それぞれの状況に応じ、各養成校で工夫する必要がありますのでご留意ください。

図表：学習習得段階に応じた留学生への対応（参考）

留学生の学習習得段階	対応方法
よく習得できている場合 ▶ 授業の理解度が高く、定期試験、模擬試験等の成績もよいケース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の授業を行っていれば、問題なく国家試験には合格できる。個別具体的な指導も、試験合格の観点からは不要。ただし、継続的に努力できる学生であれば問題ないが、そうでなければレベル別の補講に参加してもらうなど介入していく ・ 就職してからのキャリアアップを見越し、チームリーダーとして活躍する外国人介護人材の紹介等、<u>レベルの高い留学生の知的好奇心を高めるようにサポート</u>していく ・ 授業の理解度が低い学生に合わせた授業に対して不満を感じることから、介護職自体を目指す意欲もなくなるケースがあり、モチベーションの維持に配慮した指導が求められる
平均的な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の授業だけでは、国家試験合格が難しいため、授業ごとに<u>理解度を確認し、勉強の方法がわかっていない場合はアドバイス</u>する等が必要 ・ 介護の語彙など<u>基礎知識の理解を確認できるよう授業に工夫を行うとともに、大量の試験問題に触れてもらい、試験に慣れるよう指導</u>を行う ・ 留学生によって得意、不得意が異なり、<u>複数名での指導が難しい場合があるため、マンツーマンなど個別指導が効果的</u> ・ <u>この層に属する留学生は、もうあと一歩で、試験の合格基準に達する可能性を大いに秘めている</u>
あまり習得できていない場合 ▶ 授業がよくわかっておらず、定期試験、模擬試験等の成績が悪いケース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語理解能力が低いことにより、授業や試験問題が理解できないことが多い。国家試験を受験する年次でこのような状態だと合格は難しいため、<u>卒業年次までに、日本語や介護の基礎知識等が理解できるよう、集中指導が必要</u> ・ 授業内容を理解できない場合が多く、<u>教員が“最低限理解しなければいけないこと”等、学習内容のうち重要な観点を抜き出し、理解度を確認して行くことが必要</u>（あまりに高度な理解を当初から求めすぎない。理解度を確認しつつ、<u>ステップを踏んだ指導が最も必要</u>） ・ 基本的な項目の理解ができ、学習ペースがつかめれば、平均的な場合と同様に対応する

Ⅱ. 国家試験に向けて養成校に求められる対応

この章では、当協会が行った各種試験、調査の結果をもとに、養成校が留学生の国家試験対策を行う際に参考にすべき点を記載しています。各養成校におかれましては、内容を参考にいただき、日ごろのご指導に活かしていただければと考えます。

1. 留学生の学習支援



留学生指導のポイント

- Point-1** 入学の前提として日本語能力を確認する。筆記試験だけでなく、面接や作文等も活用し、総合的な日本語能力を把握しておく。
- Point-2** 入学の前提として介護福祉士の仕事についての理解を促した上で、資格取得の意欲をしっかりと確認しておく。入学後も留学生の介護を学ぶモチベーションを維持する／高める工夫が必要。
- Point-3** 補足的に日本語学習を行う場合、卒業年次（国家試験受験年次）になる前に、最低限、授業で使用される日本語や、国家試験問題の日本語を理解する程度の日本語能力は身につけてもらえるよう計画して指導する。
- Point-4** 介護の学習においては、科目別に留学生の得意不得意があるため詳細に確認が必要。この際、各留学生の理解度を確認しつつ、留学生ごとの指導方針を考えていくことが重要。
- Point-5** 介護の学習、日本語の学習においては、介護施設・事業所と連携していくとよいが、養成校の授業と施設・事業所のやり方が異なることもあるため注意が必要。

(1) 入学選抜試験での対応

① 日本語能力の事前確認

当協会では、日本語能力試験 N2 相当の方に入学してもらうように示している（※）ものの、N2 を保持していても、日本語での会話が難しい留学生も存在することに注意が必要です。N3、N4 になるとなおのことであり、日本語能力がそれほど高くない留学生の場合、入学後、講師の話す日本語が聞き取れなかったり、理解できないまま授業が進んでしまします。このようなことから、日本語能力について事前に確認することは大変重要 **Point-1** です。また、授業においても理解できているか確認をすることが必要です。

※ 当協会「外国人留学生受入れに関するガイドライン」より

以下、令和2年度に当協会が養成校向けに行った調査（以下、「R2調査」といいます）でも、入学時日本語要件をN2以上と定めている養成校と、そうではない養成校では、学力評価試験の点数にも明らかな差が出ています。

図表：学力評価試験点数（養成校平均）別の入学時に定める JLPT 要件

		調査数	N1	N2以上	N3以上	N4以上	N5以上
留学生の学力評価試験点数（学校平均）	全体	95	2.1	46.3	47.4	4.2	0.0
	70点以上	10	0.0	70.0	30.0	0.0	0.0
	50点以上70点未満	29	0.0	44.8	48.3	6.9	0.0
	50点未満	13	0.0	30.8	53.8	15.4	0.0

出典：養成校に所属する留学生の学習指導に関する調査 調査結果 報告書（令和2年度 当協会作成）

※ 学力評価試験の養成校平均70点以上を獲得している養成校のうち7割が、入学時日本語要件を「N2以上」としている。

留学生の日本語能力を確認する方法としては、基本的には日本語能力を図る各種試験（JLPT等）の点数となりますが、学力評価試験点数の高い養成校では、**これに加え、面接、作文等の試験形式を活用し、実際に日本語が活用できているかを確認している養成校が多くありました** Point-1。

② 介護を学びたい意欲の事前確認

日本語学校から養成校に入学する留学生のなかには、特に介護を学びたいわけではないが、日本に長期間滞在したいことから養成校に入学したいと考える留学生も存在することが想定されます。日本語を母国語としない留学生にとって介護の勉強は大変難しく、**介護の仕事をしたい、必ず国家試験に合格したいといった強い意向がない留学生の場合、国家試験に向けた勉強を継続的に実施することが難しい**でしょう。入学前の段階で、就学中の授業のイメージや国家資格取得に向けて、**どれほど勉強が必要かということを理解してもらった上で入学試験を受けていただく等の取り計らいが必要**です Point-2。

以下、R2調査でも、留学生の国家試験の合格意欲は、試験結果の多寡に影響していることがわかっています。

図表：学力評価試験点数（養成校平均）別の留学生の国家試験合格意欲

		調査数	必ず合格したい	できれば合格したい	合格したくない	今まで合格したかどうかを考えたことがない
留学生の学力評価試験点数（学校平均）	全体	990	69.2	28.8	0.6	1.4
	70点以上	124	88.7	8.9	1.6	0.8
	50点以上70点未満	269	66.5	31.6	0.7	1.1
	50点未満	265	61.1	36.2	0.4	2.3

出典：養成校に所属する留学生の学習に関する調査 調査結果 報告書（令和2年度 当協会作成）

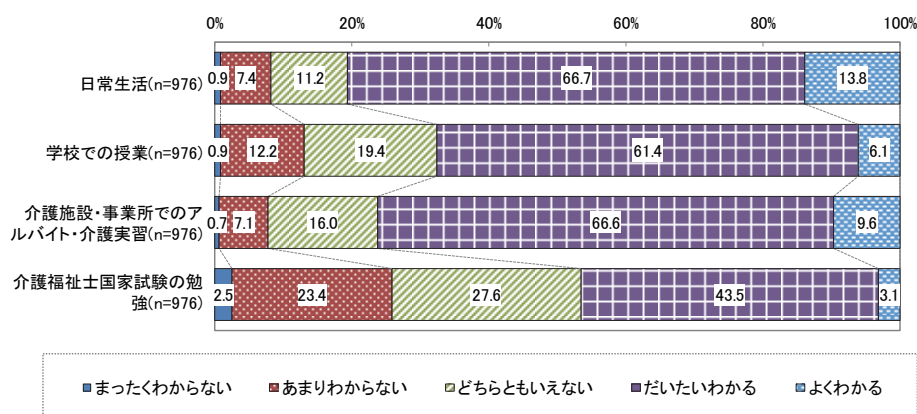
※ 学力評価試験70点以上を獲得している留学生のうち約9割が、国家試験に「必ず合格したい」としているが、70点未満の留学生はこれと比べて合格の意欲度合いが低い。

(2) 養成校での日本語指導

① 留学生の日本語理解のレベル

R2 調査では、養成校での授業の日本語を、留学生の約 3 割強が「わからない」（まったくわからない+あまりわからない+どちらともいえない）と回答しています。特に、介護福祉士国家試験の勉強で使用される日本語は、半数強の留学生が、よく理解できないとしており（まったくわからない+あまりわからない+どちらともいえない）、国家試験に合格するためには、介護学習にからめた日本語能力上達は必須事項といえます。

図表：状況別 留学生の日本語理解のレベル



出典：養成校に所属する留学生の学習に関する調査 調査結果 報告書(令和2年度 当協会作成)

② 養成校で行う日本語学習についてのサポート

日本語能力が十分ではない留学生が入学した場合は、養成校での学習を理解するためにも早期に日本語能力の向上に向けてサポートすることが求められます。卒業直前までこういった日本語のサポートをしているのでは、国家試験に間に合わないことが想定されます。**卒業年次までに、授業で使用される日本語や、国家試験問題の日本語を理解する程度の日本語能力を身につけてもらうよう、計画を立てて指導しましょう Point-3。**

具体的なサポートとして、クラス担任等とは別に、「日本語の専任教員を配置する」、「日本語学習の授業を補講で行う」などのサポートが想定されます。

養成校の教員は日本語の専門家ではないため、日本語の学習支援については、日本語学校と連携して行うとよいでしょう。日本語学校には、日本語、英語以外の多言語対応のできる人材が在籍していることも多く、そのような方に、留学生の相談支援対応を依頼することも可能です。個々の留学生の日本語学習状況を踏まえた上でのサポートを行いつつ、補講については、「国家試験の日本語学習」「日本語能力試験対策」、「日本語日常会話」、「漢字の意味と書き方」、地域によっては「方言について」等、様々な内容が考えられ、留学生や養成校の状況に合わせた補講を行うことが必要です。

さらに、大学や NPO、日本語学校等の日本語教育機関と連携し、日本語能力向上の講義を実施するなど効果的です。

なお、「国家試験の日本語学習」は、国家試験で使用される言い回しなどを指導する必要があることから、後述する「Ⅲ. 国家試験で使用される日本語を理解する」（P39～P46 参照）を踏まえ、各養成校で指導してください。

図表：想定される日本語学習指導のフロー（N3 以下の留学生も多数存在する場合）

年次	日本語そのものの指導	介護の日本語に関連した指導
卒業年次以外 (1年目等)	文法、単語など N2～N3 レベルの学習	授業内容を日本語のレポートにして提出してもらい、日本語の理解と授業の内容理解をセットで確認
<p>→ 卒業年次を迎えるまでに最低でも授業で使用される日本語や、国家試験問題の日本語を理解する程度の日本語能力を身につけてもらうことが重要 Point-3</p> <p>→ 上記が達成できないと国家試験合格は難しい可能性が大</p>		
卒業年次 (2年目等)	特になし（一定の日本語習得は終了している段階）	引き続き授業内容のレポート等を提出してもらい、理解度をチェックする

※ N2 レベルの留学生が殆どの養成校では、そもそもこういった指導はあまり必要なく、介護の勉強、国家試験の対策を中心に注力できていることに留意



一口メモ：計画的に学習することができる学生への目配り

介護の勉強が主となる養成校ですから、日本語能力については留学生自身が、授業を理解できるレベルまで自ら高めていく必要があります。入学後時間が経過するにつれ、その努力が見られない留学生と、しっかりと自分で能力をつけて勉強している留学生とでは、能力に大きな差が出てきます。

授業についてくることができない学生への補講や個別指導を行うなど関わる時間が長くなることで、他の留学生や日本人学生の指導の時間が短くなりがちであることが課題として挙げられました。授業の理解もですが、学生自身が抱える就学上の悩みや課題は様々です。一人の教員で抱え込まず複数の教員等で連携し、ひとり一人の学生を介護福祉士として育てていきましょう。



(3) 国家試験対策と絡めた介護の授業

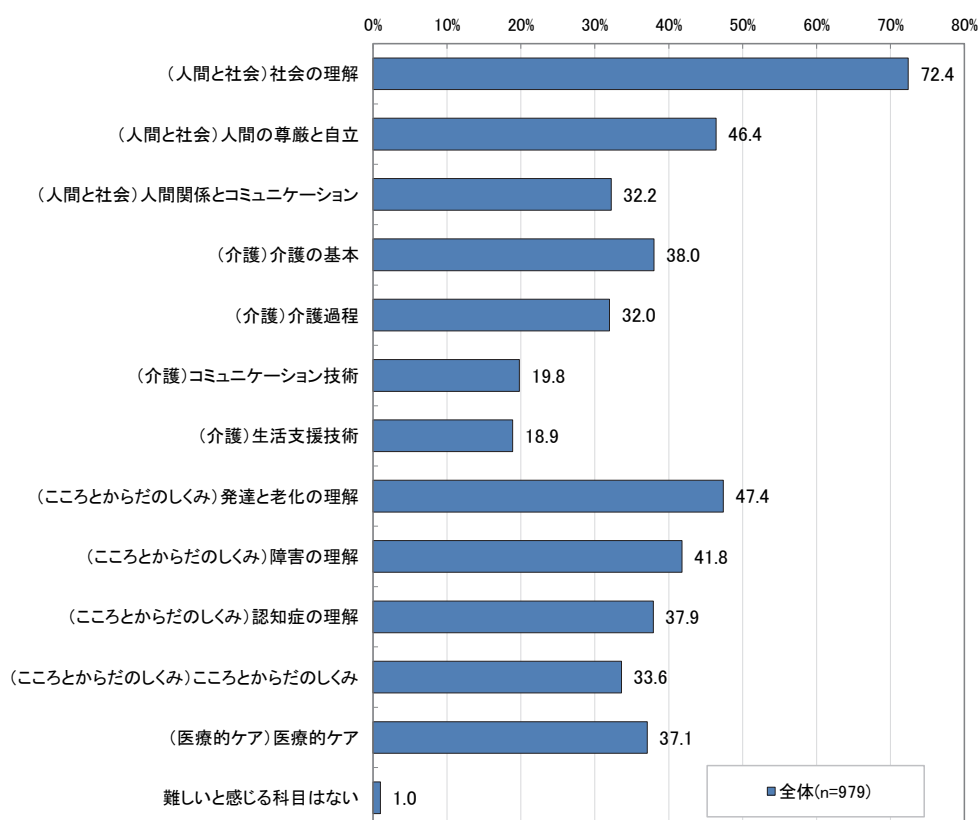
① 留学生が難しいと考える科目と、授業の理解度

R2 調査では、留学生が最も難しいと考える科目は、「社会の理解」でした。本科目は令和元年度国家試験や令和2年度国家試験においても留学生の得点率が最も低い科目、かつ日本人学生の得点率も低い結果となっています（P7 参照）。

次いで難しいと回答があった「発達と老化の理解」は、令和元年度国家試験や令和2年度国家試験において、日本人学生の得点率は76.9%と低くない（P7 参照）結果となっています。

科目別にみた留学生の苦手意識、実際の得点率等の特徴は様々であり、科目ごとにどのように授業や補講を組立てていくかが重要 Point-4です。

図表：留学生が授業で難しいと感じる科目



出典：養成校に所属する留学生の学習に関する調査結果 報告書(令和2年度 当協会作成)

一方、留学生の学力評価試験点数の多寡で各科目をみると、点数が低い留学生ほど、多くの科目で難しいと感じている傾向にあるほか、「社会の理解」、「障害の理解」、「介護の基本」については、その他の科目と傾向が異なり、学力評価試験の点数が高い場合や日本語理解能力が高い場合ほど、難しいと感じる傾向がみられました。

「社会の理解」、「障害の理解」等においては日本人学生、留学生ともに難しいと感じていますが、学習が進んでいない留学生の場合は、何が難しいのか、という判断もできていないことが考えられます。

図表：留学生が授業で難しいと感じる科目

	調査数	人間の尊厳と自立	人間関係とコミュニケーション	社会の理解	介護の基本	コミュニケーション技術	生活支援技術	介護過程	発達と老化の理解	認知症の理解	障害の理解	こころとからだのしくみ	医療的ケア	難しいと感じる科目はない
全体	979	46.4	32.2	72.4	38.0	19.8	18.9	32.0	47.4	37.9	41.8	33.6	37.1	1.0
留学生の学力評価試験点数														
70点以上	162	43.2	23.5	↑82.1	38.9	9.9	12.3	22.2	51.2	32.1	↑47.5	32.7	19.8	0.0
50点以上70点未満	186	↓47.8	↓31.7	↑76.3	38.2	↓15.1	↓15.1	↓28.5	47.8	↓37.1	↓43.0	↓36.0	↓32.3	1.1
50点未満	272	↓51.8	↓37.9	↑70.6	40.4	↓24.6	↓23.9	↓34.9	50.7	↓41.9	↓39.7	↓36.4	↓49.6	0.4

出典：養成校に所属する留学生の学習に関する調査結果 報告書(令和2年度 当協会作成)

このため、授業を進める上では、留学生の理解度を適宜把握しながら、授業を進める必要があります Point-4。

図表：留学生の理解度の確認方法（参考）

シチュエーション	理解度の確認方法
授業中	<ul style="list-style-type: none"> 表情等を観察し、わからなさそうな顔をしている場合、声をかけて確認する 授業内容にかかる質問をして、どのような回答があるかを確認（日本語が不自由な場合は、「はい」「いいえ」などで回答できるように質問を工夫することも必要） 授業ごとに確認テスト(ミニテスト)を行う 等
授業外	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容にかかる確認テスト/定期試験等の結果を元に確認する 授業内容のレポートを日本語で記載してもらったものを提出してもらい、その内容を確認する等

なお、理解度を把握したら、その結果を活用し、留学生それぞれについて指導の対応策を考え、実行していく必要があります Point-4。留学生の学習習得段階別の養成校の対応策については、P17に記載しているので、参照ください。



一口メモ：授業の満足度と理解度の違い

留学生の授業への満足度と授業の理解度は、一致していないことも多いです。留学生自身は、家で頑張って勉強していることや教員が丁寧に教えてくれることなどから、養成校の授業には満足していますが、実際には授業内容を理解できていないということがあります。一方で、学習の理解度が早い留学生ほど、わからない留学生に合わせた授業のレベルに不満を感じているということもあります。

このように、留学生の満足度が高い＝理解度が高いということは、別のことだと認識し、留学生指導に取り組むことが必要です。

② 養成校の行う国家試験対策

国家試験に合格するためには、通常の授業に加え、国家試験対策や模擬試験等を行い、試験に慣れてもらう必要があります。

「通常のカリキュラムに国家試験対策の授業を盛り込む」、「国家試験対策の補講を実施する」、「模擬試験を実施する」等の対応が挙げられます。また、「施設見学や施設利用者との交流会」などの体験を取り入れることで、学んだことの理解を促すことや深めることができます。

さらに、国家試験のミニテスト、模擬試験等を行った際はその結果を活用・分析し、指導に活かしていくことも重要です。

なお、**国家試験への対応としては、問題に慣れることが大変重要**です。**授業内容を十分に理解していても、問題の読み間違い等で失点することもある**ため、**1年次から、授業の中でミニテストを行うことや「国家試験ではこのように出題された」と触れることなど、国家試験に対する動機付けや慣れるような工夫をすると効果的です**。また、携帯電話等で使用できる国家試験等のアプリを活用して留学生に日ごろから問題形式に取り組んでもらう、というのも有効です。

図表：想定される国家試験対策のフロー（参考）

年次		具体的な国家試験対策
卒業年次以外 (1年目等)	前期	・ 授業のミニテスト、理解度テスト等で国家試験問題の5択問題等を頻繁に出題し、設問に慣れてもらう
	後期	・ 上記理解度を図った結果、芳しくない留学生には個別指導を行ったり、補講を実施したりして対応する
卒業年次 (2年目等)	前期	・ 上記を行いつつ、一度過去問等の国家試験問題125問を全問模試形式で解いてもらい、留学生にどこまで得点できるか確認。併せて留学生の得点の傾向分析や、誤回答内容の分析を行う。 ➡ 試験結果によって、補講対象の学生を決めたり、教員による個別指導の計画を立てる等行う
	後期	・ 10月からは合格に向けた国家試験対策を本格的に始動させる。 ・ 通常授業では週に2.3回以上国家試験の問題を解く授業を全員必須出席で行い、解説を行うとともに、国家試験過去問等で点数の低い学生には国家試験対策専用の補講を追加で行い点数アップに努めてもらう ➡ 試験結果によって、補講対象の学生を再編したり、教員による個別指導計画の見直し等を行う
	国家試験直前期 (11月以降)	・ 11～12月ごろには通常のカリキュラムの授業を終了させ、国家試験対策を中心とした授業運営に移行する ➡ 高得点を取ることのできる留学生は自習でも良いが、そうでない留学生は、基本必須出席



一口メモ：各養成校の国家試験対策

★令和元年度留学生 16名すべてが国家試験合格の養成校より★

国家試験合格のために、とにかく、試験問題をたくさん解いてもらうことが重要です。過去問、模試等とにかくたくさん取り組んでいます。国家試験直前期の1月は、毎日、模擬試験を実施して留学生に解いてもらい、合格点に達しなかった留学生は放課後残ってもらい、補講を行っていました。また、試験結果をもとにしてクラス分けを行い、ミニテストや模試の結果等は詳細に分析して各留学生の指導に活用していました。こういった繰り返しを行うことで、留学生が試験問題に慣れ、かつ知識も付き、全員の国家試験合格に導くことができました。

★3年制の養成校より★

2年制の養成校が多い中、当校では3年制とし、留学生指導にあたっています。授業期間中の平日は、午前授業・午後は自由時間となり、午後、多くの留学生が介護施設等でアルバイトを行っています。留学生は入学時に授業での日本語理解が難しい部分もあり、1年次は主に介護の日本語の指導を行うこととなりますが、そこで多少の授業の遅れがあっても、残り2年で調整することが可能です。また、国家試験対策も、2年次から2年間、余裕を持って対応できています。

このように、3年課程にすることで余裕をもって就学することができます。1日に学ぶ内容（科目）が少ないこと、自由時間が増えることで、留学生自身が復習や課題に取り組む時間も増え、無理のないスケジュールで学習を重ねることができます。また、介護施設等のアルバイトも長い期間経験できるため、理解を深めることにつながります。

③ 科目別の指導のポイント

国家試験対策を行う上では、科目別に留学生在が苦手とするポイントを見つけ、理解できるように指導していくことも必要です。また、それぞれの科目は関連している項目も多く、関連科目担当教員で共通認識を持ち指導に当たることや、日本語教員と連携して指導していくことも必要です。

以下、学力評価試験の得点が高かった養成校にヒアリングを行い、留学生在がどのようなポイントに難しさを感じるか、領域／科目別にまとめました。

各養成校において学習指導の参考にしてください。

<領域：社会の理解>

科目	留学生在が難しいと感じるポイント	国家試験に向けた指導のポイント
人間の尊厳と自立	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳とは何か、倫理とはどういうことなのかの理解が難しい。自分の価値観が優先してしまうが、そこには気付かない 自立支援の理解が難しい 人名や著書、考えなどが覚えられない 文字で事例を読んでイメージすることが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 留学生在が理解しやすい（想像しやすい）例を出し、そこに関連して説明する 問題や事例を読んで微妙なニュアンスで答えるような問題も多くあるため、読解力のトレーニングが必要 過去の国家試験で使用されたキーワードを使って、その意味を具体的に説明し、理解を促す 「人間の尊厳と自立」「介護の基本」の内容と関連させながら理解を深める
人間関係とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 自己主張が激しい等、日本におけるコミュニケーションの基本を理解するのが難しい 日本語の表現の理解 パーソナルスペースの理解 	<ul style="list-style-type: none"> 国によって考え方など異なる点もあるが、専門職としての基本姿勢として、利用者主体等を指導する 言葉選びについては、その都度言葉を直すように、なぜ修正が必要なのかもあわせて指導する 日本語の表現については、実習やロールプレイなどを通じ、積極的に体験的獲得を目指す。また、日常生活は医療用語・福祉的専門用語に影響されすぎたはならないことを他の授業との関連からも教授していく 専門用語については、定期的に留学生在に問いかけ、記憶に留まっていることを確認する パーソナルスペースについては、具体的な日本人との対人場面を多く経験し、実習や授業のロールプレイなども通して観察と同時に体験的獲得を目指す 過去問や模擬問題の、問題の解釈の正確さと、選択肢の意味のとらえ方の傾向を把握し、最も適切なものが選択できるように何度も問題を解いてみる
社会の理解	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史がわからないため、覚えることで精一杯 難しい漢字が多く、漢字も覚えることが大変である 社会保障制度、言葉の意味などの理解力に個人差が見られ、差がつきやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 日本で暮らすことで、将来起こりえる、老化、病気、障害、失業などの問題が出たとき、生活を支える自分にとっても身近なものとしての制度の理解意識を持てる工夫をする 歴史の背景にはどのような出来事があったのかを連想させる。その時、何が問題か、どうすることが必要かを順番に出していき、国民が何に困り、その困りごとを解決するためにどのような制度ができたか説明していく 模擬試験を行った上で学生自身が苦手とすることを確認し、解説を通して再度理解を促す。それを何度も繰り返す

科目	留学生が難しいと感じるポイント	国家試験に向けた指導のポイント
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律や制度、サービス等は漢字表現が続くため、必ず音読を行い、視覚・聴覚から脳を刺激して理解につなげる ・ 留学生が実習する施設・事業所を活用して、その根拠法や現在の制度などの理解を図る ・ 内容によっては「介護の基本」「障害の理解」「発達と老化の理解」「認知症の理解」と連動させて、社会の制度のしくみを指導する

<領域：介護>

科目	留学生が難しいと感じるポイント	国家試験に向けた指導のポイント
介護の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「介護」に関しての歴史を理解することが難しい。利用者本位とは何か、尊厳とは何か、一つ一つを理解し、説明し実行することが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「人間と社会」と連動していることがわかるように授業を進めていく。例えば生活や人権と尊厳についての理解から、介護を必要とする人の生活や尊厳を支える介護へと理解を深める。また各種制度と介護に必要なサービスの関連性の理解を深める等(母国と比較等の工夫) ・ 利用者本位や尊厳について、まず学生自身に置き換えて考えてもらう。そこから理解を深め、介護におけるニーズの理解、介護福祉士に求められるものは何かの理解、利用者から家族までの関わりについて理解させる ・ 「介護の基本」の知識を実践場面で具体化していく「介護過程」、「生活支援技術」との関係性やさらに「実習」に連動していることを意識して授業を進めていく ・ 演習や実習・アルバイトでの体験を振り返り、適切な解決策へと導く ・ 学習のポイント等が出てくるキーワードについて繰り返し教えて覚えてもらう ・ 国家試験の出題項目である10項目を一つひとつ、日常生活の行為と結びつけて、丁寧に具体的に説明を行い、理解を促す
コミュニケーション技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護を必要とする人とのコミュニケーション手段を理解する以前に、何を問われているのかわからない学生もいる(どのようなコミュニケーションが望ましいのかを頭の中で理解し、適切な言葉を選択することができない) ・ コミュニケーション障害(失語症や構音障害)の理解が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傾聴・受容・共感については具体例を出しながら、説明が必要 ・ 日常生活の中で実際に行動できるよう説明をしながら指導する ・ 疾患とコミュニケーションは、領域：こころとからだのしくみの「発達と老化の理解」「認知症の理解」「障害の理解」で学んだ疾患や後遺症の特徴やコミュニケーションを図る時の留意事項などを意識した学習を行う。また、人間関係とコミュニケーションと一緒に繰り返し学習していく ・ 介護におけるチームのコミュニケーションでは、「報告・連絡・相談」また「記録」について、授業や養成校での日々過ごすなかで、意識化を図っていく ・ 専門知識の定着と同時に、障害種別に応じたコミュニケーションの基礎力について、日本語の解釈を含めた指導が必要(日本語の教員と連携することも必要か) ・ 演習や実習・アルバイトでの体験を振り返り、適切な解決策へと導く
生活支援技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法や制度が国によって違うため、例えば「行政」などと言っても伝わらず、説明しても理解が難しい部分があったり、その都度、単語で引っかかる事が多い ・ 文化面や生活様式のの違いで、伝えるのが難しく(疾患/食べ物/栄 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「こころとからだのしくみ」の人間の心や人体の構造・機能の基礎知識は介護実践の根拠となる。「介護の基本」、「介護過程」との関係性を常に意識して伝えていく ・ 演習や実習・アルバイトでの体験を振り返り、根拠をもった技術になっているか確認する。基本と個別性についてもしっかり考えられるようになるように指導する

科目	留学生が難しいと感じるポイント	国家試験に向けた指導のポイント
	<p>養／自国にはないもの（湯たんぽや電気毛布等）、また居住環境についても理解することが難しい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で連想できるものについては、連想しながら説明をする。また、目でみてわかるものについては、口頭での説明と同時に現物を示したり、写真や絵を使って説明する 実技は講義と演習をして理解を深めることができるようにする。また、実技では失敗しても考えることを優先している。どういことがしてはいけないことかを言葉で説明するよりも学生自身が間違えることで利用者の大変さに気付くことができ、正しい方法を考え実施することにつながる 栄養・被服などは、比較的良好に出題される基本的な問題を中心に学習する 養成校で学ぶ日常生活行為に対する生活支援技術は基本であることをしっかりと伝える 留学生が介護福祉実習を経験して以降は、実習施設や事業所で提供されている生活支援技術の実際と、養成校で学ぶ生活支援技術の基本との結びつけを行い、留学生が混乱しないようにする
介護過程	<ul style="list-style-type: none"> 概念の理解、利用者主体ということはあるが、何が利用者主体ということになるのか問題から読み解けない 事例問題の読み込みが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人ひとりに対してのニーズを理解するために、どのような情報が必要か、またそれらの情報を集めるためにはどのような社会資源があるか等を詳しく何度も説明する。「人間と社会」、「こころとからだのしくみ」、「介護の基本」「生活支援技術」と連動していることを意識させる 実習の中での指導を徹底する 事例問題は、領域：こころとからだのしくみの「発達と老化の理解」「認知証の理解」「障害の理解」などで学ぶ疾病や後遺症による関わる際の留意点などと結びつけて、事例に登場する利用者像の理解を促す 実習の事を例に挙げると理解が進みやすい 学生がその事例をどのように解釈しているのかの傾向を確認し、それを踏まえての指導方法を柔軟に行う(どの分野の知識が不足しているのか、解釈の違い等、そもそも問題の意味がわからないのか明らかにする) わかりにくい制度用語を確認しながら具体的に事例を示し授業をすすめる、ミニテストなどで確認し必要な学生には、課題や補講なども考える

<領域：こころとからだのしくみ>

科目	留学生が難しいと感じるポイント	国家試験に向けた指導のポイント
発達と老化の理解	<ul style="list-style-type: none"> 人それぞれの人生があり、生き方などがあることを理解しなければいけないが、日本の文化や歴史、時代背景などの理解が難しい 発達に関する問題（エリクソン、フロイトなど）が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 人の発達についての理解をする。人の発達については、留学生の自国での子どものころの発達に関するエピソードを活用しながら、理解を促すことも一つの方法である 老化するということとはどういうことか、「生活支援技術」、また、「こころとからだのしくみ」でも学ぶため、他の科目と関連させながら理解を深めることができるようにする 人間の発達段階や発達課題については、自分や身近な家族の成長発達や課題を過去問題によく出る理論（エリクソン、フロイト等）と関連させる 日本の文化・歴史、時代背景に関しては、母国と比較を行うなどの工夫をする 「こころとからだのしくみ」と連動させながら高齢者に多い疾患、症状等の知識の定着を確認した上で、その日常生活の留意点が答えられるようにする

科目	留学生が難しいと感じるポイント	国家試験に向けた指導のポイント
認知症の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の症状についての理解はできるが、「中核症状」と「BPSD」の違いの理解が難しい。また説明することが難しい ・ 認知症への対応についてもある程度理解はできるが、文章になると記載されていることが理解できない。また書くことが難しい ・ 比較を問うような問題が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病や様々な症状のある高齢者を、どのように保健医療職が支えているのか、それに関する事例を具体的に取り上げ、イメージできるように工夫をする ・ 高齢者に多くみられる疾病の特徴等は、介護福祉実習で関わった利用者結びつけて、理解を深めることも一つの方法である ・ 認知症高齢者の現状や行政の方針・政策は、常に最新の情報を『社会の理解』と関連させてわかりやすい表現で伝える工夫をする ・ 認知症の中核症状と BPSD は、明確に分けられるものでないため、理解しにくいので代表的な中核症状と BPSD の基礎知識を具体的にイメージできるように理解してもらう ・ 各認知症の比較表（原因・症状・特徴）を作成し、学生が説明できることを目指す ・ 認知症の医学的基礎知識を定着させ、その知識を「介護の基本」、「介護過程」、「コミュニケーション技術」、「介護過程」との関係性、つまり、認知症のその人らしさ、生活のニーズ、情報収集、介護過程に連動していることを伝える ・ 認知症を支援する地域のサポート体制や役割をサービスの種別や専門職の種類や役割を「社会の理解」、「介護の基本」でも学習していることを意識して伝える ・ 実習や施設アルバイト等の経験がある場合、利用者を例に挙げて説明すると理解が早い。ただ、同じことを文章にすると理解できない学生もあるため、何度も読むこと、書くことを行い、過去問題および模擬問題を定期的に行い、解説を通してさらに理解を深める ・ 認知症をケアする家族に関する助言についてより適切な助言ができるようにするため、認知症高齢者や家族の心理や現状を読み取るようになることから始める ・ 代表的な認知症の特徴の一つひとつは、理解できていても、複数の認知症の特徴が、同時に出题されると、正確な理解に至らないことがあるため、過去の国家試験の活用や類似問題の作成などで、しっかりとした理解にしていける必要がある
障害の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害とはどのようなものがあるか、そしてそれぞれの障害に応じた対応については何となく理解している。しかし、文章化することや説明することは難しい ・ 専門用語、外来語の理解が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「社会の理解」の中の障害福祉制度の位置づけを明確に示す ・ 障害のある人を支える制度については、難しい用語が多いので、一般の人にも伝わるような表現に工夫して伝える（区役所にあるわかりやすいパンフレットを参考にする） ・ 障害別の症状や特徴を「こころからだのしくみ」「発達と老化の理解」と連動させながら、医学的知識の定着を図る ・ 障害形態別の支援については、医学的基礎知識を理解した上で、「コミュニケーション技術」、「生活支援技術」に統合させることで理解を深めていく ・ 障害がある人の地域のサポート体制については、母国の地域をまず考えてもらい、日本の地域との違いから学びを深めるなどの工夫をする ・ 実習や施設アルバイト等の経験がある場合、利用者を例に挙げて説明すると理解が早い。ただ、同じことを文章にすると理解できない学生もあるため、何度も読むこと、書くことを行い、過去問題および模擬問題を定期的に行い、解説を通してさらに理解を深める ・ 身体障害の理解については、各留学生の体験等を通して、イメージから理解へとつながりを持つようにする ・ 知的障害、発達障害、精神障害などについては、かかわりの留意点など、基本をしっかり理解する

科目	留学生が難しいと感じるポイント	国家試験に向けた指導のポイント
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の理解については、法律や制度の関係も深いため、「社会の理解」の障害に関する制度や法律と関連させて学習することで理解を深める ・ 障害の種類や難病等、漢字が多く使われているため、音読などを行い、言葉の理解を促していく
こころとからだのしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護を必要とする人の生活支援を行うために必要な観察力や気づきについてはある程度できるが、利用者一人ひとりの症状にあわせた支援を行うには何が必要か、どのように支援すればよいかを説明および記載することが難しい ・ 記載されていることを理解し、説明できないこともある（読むことはできるが、書かれている意味がわからないため答えることができない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の心や人体の構造・機能は「発達と老化の理解」、「障害の理解」、「認知症の理解」を学習していく上で、基礎知識として習得しておく認識を持ってもらうよう指導する ・ 専門用語が多いため、授業では、わかりやすい工夫（図、表、画像）と同時に知識定着度をミニテストなどで確認し必要な学生には課題や補講なども考える ・ 人間の心や人体の構造・機能の基礎知識は介護実践の根拠となるため「介護の基本」、「生活支援技術」との関係性を常に意識して伝えていく ・ 様々な例を挙げ、説明をする。過去問題や模擬問題を通して、言葉の理解を深める。解説を行うことで問題の意味を理解する ・ 比較的頻出する問題から確実に正答できるようにしていく ・ 日常生活における生活行為について、提供する生活支援技術の根拠となる科目である。そのため、生活支援技術と関連させて学習し、理解を深める

<領域：医療的ケア>

科目	留学生が難しいと感じるポイント	国家試験に向けた指導のポイント
医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清潔保持、感染予防、健康状態の把握などについての理解はできる ・ 問題の読み込みが甘く、勘違いで回答してしまうことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「医療的ケア」は「こころとからだのしくみ」を基礎知識としていること、さらに医行為を行うため命に直結する行為としての詳細な医学的知識の必要性を理解してもらう ・ 高度な専門知識なので、知識の定着をミニテストなどで確認し必要な学生には課題や補講なども考える ・ 医療的ケアの根拠を言える手順として理解しているのか確認していく ・ 医療的ケアの演習についての手順はできる。解剖生理についての理解もある程度できているが、試験問題になると問われている意味の理解ができないこともあるため、過去問題や模擬問題を通し問われている意味の理解ができるように指導する。解説を通してさらに理解を深める ・ 過去の国家試験で使用されたキーワードを使って、その意味を具体的に説明し、理解を促す

<総合問題>

科目	留学生が難しいと感じるポイント	国家試験に向けた指導のポイント
総合問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長文が読めない ・ 事例問題の文章が長いと、問われていることの意味が理解できないことがある ・ それぞれの科目において、何らかの形でリンクしている。学生の中には、同じ言葉の意味を他の科目で学んでも、科目同士でリンクしていること、連動して覚えなければいけないことがわからず、一つ一つの科目事で覚えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例を読むことに慣れてもらい、文章の中のポイントを理解してもらおう。日本語力と専門知識の連携が必要である ・ 学生がその事例をどのように解釈しているのかの傾向を確認し、それを踏まえての指導方法を柔軟に行う(どの分野の知識が不足しているのか、解釈の違いか、そもそも問題の意味がわからないのか等、明らかにする) ・ 読むことに慣れてきたら、問題の数をこなしてみる ・ 解説は、選択肢にでている言葉も含め、時間をかけて行う ・ 他のどの科目で同じ言葉を聞いたことがあるか、解説をしながら確認し、その科目同士は結びついているのだと理解につながるようにする。数回くらいでは理解できないため、何度も同じことを繰り返し説明する ・ 各科目の講師にもどの科目とリンクしているかを授業の中で説明してもらおう ・ 総合問題を解くには、まず設問を読んで、何が問われているのかを理解する。そして、事例を読み、事例の読解力を高めるようにする。そして、問題を解く練習を繰り返し、押さえておかなければならないキーワードやフレーズを適切に把握できるようにする。押さえる箇所の意識化を図る ・ 事例問題は以下 1.～3.の要領で出題される傾向にあるため、担当の利用者に対してそれぞれ考えてもらい、理解を深める <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の理解 (どのような症状ができるか？生活への影響は？) 2. 本人の思いを考慮した支援方法 3. 介護方法



(4) 介護施設・事業所と連携した留学生の指導

留学生が近隣の介護施設等でアルバイトすることは、コミュニケーション能力や介護技術の向上など資格取得に向けて効果的です。また、養成校にとっても、介護施設等と連携することで介護現場における留学生の理解度や課題の把握、アルバイトの時間管理がしやすくなるなどのメリットがあります **Point-5**。

一方で、留学生が一時帰国を希望したにもかかわらず、アルバイト先の介護施設等に難色を示された等の事例もあり、養成校の職員が、アルバイト先の介護施設等と十分に連携しながら対応していく必要があります。

図表：介護施設・事業所との連携内容（例）

連携トピック		内容
留学生がアルバイトをしている介護施設・事業所との連携	学習の進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> 養成校側からミニテスト、定期テスト等における学生の理解度等を設・事業所と共有し、アルバイトにおける介護の理解等が進むよう促してもらう 施設・事業所側から留学生が現場で理解が難しいことやできていないこと、ヒヤリハットになったこと等を共有してもらう 定期試験、国家試験前等にアルバイトをしなくてよいように日程調整を行う
	各種学習指導のサポート	<ul style="list-style-type: none"> 施設でも実践を通じて介護の根拠の説明や疾病等の説明や、コミュニケーション技術の習得につながるよう意図的に関わってもらう 施設・事業所で行われている介護の研修等に、留学生も参加させていただく
	実習先	<ul style="list-style-type: none"> 実習先としての連携
上記以外の介護施設・事業所との連携	施設・事業所見学先	<ul style="list-style-type: none"> 留学生が高齢者と触れ合う先として、施設・事業所を活用させていただき、施設理解や利用者理解を促す
	地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 夏祭り等のイベントにて施設・事業所と共同し、留学生へ地域住民とのふれあいの場を提供

なお、養成校で修学する留学生のために、奨学金を設置している事業所もありますので、留学生に情報提供してもよいでしょう。



一口メモ：養成校で学んだ技術とアルバイトや実習先での技術の違い

介護施設・事業所で指導をいただくことで留学生の学習能力の向上が図れる一方、養成校の授業で学んだ事柄と介護施設・事業所でのやり方・教え方が異なる場合、留学生が混乱することもあるためフォローが必要です。

養成校で教員が教えていることは基本となる介護技術であり、現場では個々の利用者にあわせて応用実践されています。ここでは、留学生が混乱しないよう、教員から丁寧に説明し、留学生に理解してもらう必要があります **Point-5**。

(5) 介護学習を行う上でのモチベーション管理

留学生が、介護の学習を楽しいと思えたり、また介護は大切な仕事でやりがいのある仕事だと思えるよう、授業でもモチベーションの維持や向上に向けて働きかける必要があります

Point-2。各科目で学ぶ専門知識と紐づけて、何のために介護という職業が存在するかを説いたり、机上の授業だけでなく、実習や介護施設等でのアルバイト、課外授業での高齢者とのふれあい等の機会も活用し、介護の大切さ、介護福祉士が専門的に関わることによって利用者にもどのような影響があるのか等、介護の仕事の専門性や魅力を理解してもらうようにしましょう。また、資格取得後、介護職として現場でどのようにキャリアアップしていくか等、専門職としての発展的な話をする 것도効果的です。



一口メモ：介護を魅力的に感じてもらえるような工夫

介護職として働くことを魅力的に感じてもらえるよう、授業内外で工夫することも重要です。

ある養成校では、「介護がどのように魅力的な職業か」ということを留学生自らプレゼンテーションする授業を行っています。

また、介護の仕事+αで利用者に対してどのような価値を提供できるかという点で、選択科目にてアロマ・メイク・クッキング・音楽療法等を留学生に選択してもらい、地域の一般高齢者へ実践する授業を行っている養成校もあります。

出身国によっては、80代～90代など的高齢者と日常で一般的に触れあう機会がなかった留学生も存在することが考えられ、高齢者とのふれあいは、「高齢になるとどのような機能が衰えるのか」等、老いることの理解を深めることにもつながります。その意味では、養成校で夏祭り等地域のイベント等に参加する、なども試みとしてよいかもしれません。

(6) 卒後支援／卒業生との交流

国家試験の結果が不合格であった場合は、国家試験合格のための卒後支援を行います。

具体的には、補講や国家試験対策の授業や模擬試験の実施等です。この場合、卒業留学生は養成校に複数回来校することになるため、現場で困っていることはないかなど、話を聞くことで離職の抑制にもつながります。また、相談支援や、勉強相談会等を在留留学生と合わせて行うことで、卒業留学生、在留留学生の交流の機会にもなり、それぞれのモチベーションの向上にもつながります。

2. 留学生の学習環境の整備



留学生指導のポイント

- Point-1** 留学生が落ち着いて学習に励むためには、生活環境の整備が重要。
- Point-2** 生活全般のサポートは既存のマニュアル等が作成されているので、それを参考にするとよい。
- Point-3** 生活全般に悩み等がある留学生は、学習に身が入らない傾向があるため注意が必要。
- Point-4** 生活指導は別担当等で配置し、介護教員は学習の指導に専念する。

日本語学校を卒業して日本での生活に慣れている留学生が多いとはいえ、未だ日本の文化に不慣れな留学生もいます。

生活上の問題を抱えていると、学業に身が入らなくなるケースが多く、留学生が落ち着いて学習に励むためにも、生活環境の整備が重要です **Point-1**。

R2 調査では、学力評価試験の得点が高い養成校では、そうでない養成校に比べ、寮の整備や礼拝所の設置等、複数の項目において留学生の学習するための環境整備を行っていました。環境の整備は一定程度試験結果に結びつくことから、参考にさせていただきたいポイントです。

(1) 留学生が抱える生活全般の問題について

① 住環境

複数の留学生や他の在留資格の外国人と複数人でシェアハウスしているケースがあります。この場合、自宅で落ち着いて勉強ができる環境にないため、養成校に自習スペースを設ける、部屋を借りるサポート、寮の整備等を行うことで、学業に集中できる環境が作り出せます。

② 宗教・信仰

それぞれの宗教によって様々な服装やお祈りの儀式がありますが、それらが理由もなく否定されたり、理解してもらえないなど、信仰する宗教に配慮がないことで不安を感じる方がいます。宗教によっては礼拝の部屋等を用意する必要もあるでしょう。

③ 文化や習慣の違い

母国では「ほめられる」文化にいた留学生も多く、怒られることに慣れていない可能性もあるため、指摘等の仕方にも注意が必要です。

また、時間管理については、留学生が授業に遅刻すると咎められるのに、教員が授業を延長することがあるなど、始まる時間には厳しいのに、終わる時間には寛容、などの文化に違和感を持つ学生も多く存在します。

その他、ゴミの捨て方がわからない、母国の気候との違いに慣れておらず冬は寒く辛い等、あらゆる観点から不安に感じることが多くあります。

各留学生の特性に応じ、適切な対応が必要です。

④ 各種保険等の事務手続き

国民年金や健康保険等の社会保険のしくみを理解していない留学生も多く存在します。また、住所変更や在留資格の期間の更新等の事務手続きが困難である可能性もあります。

なお、留学生の健康保険については、「国民健康保険」が適用され、市区町村役場で居住地の届出をする際に、一緒に国民健康保険の加入手続きを行います。日本に滞在する留学生は必ずこの保険に加入しなければなりません。保険料は、地域やその他の事情によって異なります。国民健康保険に加入することによって医療費（歯の治療を含む）の70%が減免されるため、留学生自身の負担は治療費の30%となります。

このような手続きは、養成校の事務担当職員等と協力し、指導・対応しておきましょう。

⑤ 修学資金等、お金に関すること

アルバイトをしながら修学資金を支払っているだけでなく、母国に仕送りをしている留学生も多く存在します。病気になった等でアルバイトが続けられず生活に困る、アルバイトをしても生活費が足りず困る、等の事例があります。

養成校で修学する留学生には、以下の奨学金を貸与できる可能性があるため、適宜、留学生に情報提供してください。

なお、奨学金については、修学するための資金であり、仕送りや日本で遊ぶためのものではないことを留学生に十分伝えておく必要があります。

図表：留学生が受けることのできる奨学金

奨学金名	内容
介護福祉士修学資金貸付事業の奨学金	養成校の在學生で、将来、介護業務等に従事しようとする方に対し、資金の貸付を行う事業です。各都道府県の社会福祉協議会が実施しており、養成校卒業後に貸主の都道府県内において就業することを奨学金貸与の要件としているケースが一般的です
日本学生支援機構の奨学金	無利子貸与の「第一種奨学金」と利息付貸与の「第二種奨学金」があります。養成校の奨学金貸与対象学科の正科生であり、経済的理由により修学に困難で優れた学生等であると認められる人であれば、奨学金を受けられる可能性があります
都道府県・市町村からの奨学金	介護職種の人材確保の関係から、都道府県や市町村等でも、養成校に入学する学生に奨学金を給付・貸与している場合があります。ただし、養成校を卒業後の就職先が奨学金の給付・貸与を受けた地域に限定される場合もあります
介護施設等からの奨学金	将来、奨学金の貸与を受けた介護施設で就職することなどを要件に、養成校に入学する留学生に奨学金を貸与している介護施設があります



一口メモ：奨学金制度の活用

奨学金は成績等にかかわらず利用できるものですが、実際に利用している留学生は多くなく、制度を知らない、という留学生もいます。国家試験合格のためには自学自習が必要ですが、その時間をアルバイトに割き、勉強時間が少なくなっている可能性も存在します。

奨学金を活用すれば、アルバイト時間を減らせる可能性もあり、奨学金情報は広く留学生に周知してもよいでしょう。



(2) 生活全般についてのサポートについて

留学生は、それぞれの個性を持っており、悩みも十人十色です。また、留学生のなかには、わからないことを「わからない」と言えずに困っているケースもあるほか、お金がないため医療機関にかからず体調不良を我慢しているケースもあります。それぞれの持つ不安や疑問について、日頃からのコミュニケーションを大切に、できる限り不安を聞き出した上で共に解決し、健康に修学できるサポートすることが重要です。

また、留学生が気兼ねなく不安を話すことができる環境という意味では、母国語で話せる場があることも効果的です。日本語学校や大学、NPO 等と連携し、そのような機会を作るのもよいでしょう。

在留資格に関することや、文化の違いに関すること等、事前に想定されることについては、在留資格関連：出入国在留管理局の手続きを把握する、文化の違い関連：留学生の母国の状況や環境を調べて職員が理解しておく、等の対応も重要です。

留学生への生活全般のサポートをする際には、国・自治体等が作成している既存のマニュアルも活用できます Point-2。例えば、東京都や警視庁が作成している「外国人在留マニュアル」（右記イメージ）では、ゴミ出しのマナーから在留資格の手続きに関することまで様々な事柄が、簡潔に、かつ日本語のふりがな付きで記載してありますので、目を通しておくとともに、留学生にも情報提供すると良いでしょう。

なお、**留学生にとって、こういった生活全般の事柄に悩んでいると学習の妨げになる Point-3**だけでなく、**教員の時間をこれらのサポートに費やしすぎると、学習の指導の時間を圧迫し兼ねないため注意が必要です。生活サポートについては、生活支援担当等の専門に対応する方を設置する、複数の教員で連携するなど、学習指導の妨げにならないように**しましょう Point-4。



3. 養成校での留学生指導についてのまとめ

令和元年度に当協会が行った R2 調査の結果から見ると、高得点を取ることのできる養成校と、そうでない養成校においては取組内容、体制においても差があることがわかっています。質の高い介護人材を輩出いただくことを養成校は第一に考えているところではあります。が、その質を担保するという意味でも、国家試験に合格する必要があります。

各養成校の状況に応じた対応が必要となってきますが、本ガイドラインに掲載する事柄を参考に、養成校の留学生受け入れ体制の見直しや、指導の参考にする等、ご活用いただければと考えます。



一口メモ：高得点の養成校の特徴

当協会が行った学力評価試験で 75 点以上の養成校平均点を取得した養成校のアンケート結果、およびヒアリング結果から見えた特徴として、以下のものが挙げられます。留学生の学習習得段階にあわせて介護や日本語の学習を手厚くサポートしている様子うかがえました。

- 入学時の日本語能力試験の要件を N2 以上と設定しているため、学習に必要な日本語理解／学習能力のある留学生が入学している。
- 一般的なテキストを使用して授業を行っており、留学生用に特別な教材を用意していないが、介護学習をサポートするための専門部署を設置したり、日本語の学習をサポートするための体制を構築する等、学習のサポート体制を十分に整備している。
- 留学生に対して個別の進捗管理を行い、レベル別に指導を行っている養成校も多く、これ以上留学生の人数が増えたと対応ができなくなる等の理由から、現状以上の留学生数の増加には積極的ではない。
- 国家試験対策は模試・ミニテストの実施、介護の補講も行っていますが、留学生の自主性にも任せている部分もあり、留学生の能力によって実施頻度は変えている。



Ⅲ. 国家試験で使用される日本語を理解する

この章では、留学生への指導に関し、前提となる「国家試験の日本語」について記載しています。養成校の教員が留学生の国家試験対策を行う上で基礎中の基礎となる考え方であり、まずこの内容を理解いただき、各教員の皆様におかれましては留学生の指導にあたっていただきたいと思います。

1. 国家試験で登場する日本語を理解する



留学生指導のポイント

- Point-1** まずは国家試験の日本語を知ることが重要。
- Point-2** 国家試験で使用されている語彙の分野は多岐にわたるため、外国人は国家試験の語彙を難しいと感じ、ひいては国家試験の日本語が難しいと感じる。
- Point-3** 国家試験で使用されている文法は、それほど多くの文法事項が使われているわけではない。

(1) 国家試験の日本語をよく見てみよう

介護福祉士国家試験は外国人にとって、難しいとよく言われます。特に日本語が難しいことが外国人の合格率が低い理由に挙げられることが多い現状があります。国家試験は日本語による試験であり、日本語を1~2年ぐらいしか勉強していない外国人にとって、難しいのは当然のことです。

では国家試験の日本語の何がどう難しいのでしょうか。まずは、日本語という観点から国家試験をよく見てみる必要があります。国家試験の日本語を知ることで、国家試験対策の指導方法も自ずと見えてくる **Point-1** のではないのでしょうか。

(2) 国家試験の日本語の何が難しいのか

国家試験の問題を開くと、一見して難しいと感じるでしょう。それは「なぜか」。使われている語彙が難しいからです。介護専門の漢字語彙です。誤解のないようにしたいのは、あくまでも専門語彙で普段の生活では使用することが少ないという意味です。

第31回、第32回の国家試験をみると問題1は事例問題になっています。10行ほどの文と使われている漢字の言葉に圧倒され緊張するかもしれません。第32回の国家試験の問題1から漢字語彙を拾ってみると、「人工透析、延命治療、選択、意思決定、計画書、最期、提供、責任者、対応、意向、想定」などの漢字語彙が使われています。

国家試験の日本語が難しいと感じるのは、全体を通しての漢字語彙の難しさによるものだと考えられます。

(3) 語彙が難しいのはなぜか

国家試験の語彙が難しい理由として次の2点が考えられます。

まず1点目は、使用されている語彙数が多いということです。一般社団法人国際交流&日本語支援YはEPA介護福祉士候補者に国家試験対策のテキストを提供していますが、その中の1冊に「介護の言葉と漢字国家試験対策ウォーミングアップ」があります。同テキスト作成にあたり、7年分の国家試験から漢字語彙を抜き出してみたところ、約22000語ありました。はっきりした記録がないのが残念ですが、その中で使用頻度15回以上の漢字語彙はそれに比べてずっと少なく、約300語彙ぐらいではなかったかと記憶しています。このことからみても、使用されている語彙数が多いということがわかります。

2点目には、使用されている語彙の分野が多岐に渡っているということが挙げられます。

国家試験の科目は12科目あり、「憲法第25条からジャガイモの芽まで」と例を挙げたことがあります。法律、制度から家事、人体、病気など、それぞれに使われる語彙の種類が違っています。

以上2点から、**外国人が国家試験の語彙は難しいと感じること、ひいては国家試験の日本語が難しいということになっている** **Point-2** と考えられます。

(4) 文法について

国家試験には日本語の難解な文法が使われているから、文章の理解を困難にしているということもよく聞きます。はたしてそうでしょうか。ここでも、国家試験の文章をよく見てみましょう。

第32回の国家試験では、総合問題を除いて、事例文は113問中27問あります。そのうち5行以上の文の事例文は11問です。国家試験では長文は少なく、文章が短いということは、そこで使われる文法事項は少ないということです。結論からいうと、国家試験の日本語文法は決して難しくないといえます。総合問題の事例文以外、長文は少なく、2~3行ほどの文の事例問題、1~2行の問題指示文となっています。選択肢では語彙選択の問題も多くあります。以上から、**それほど多くの文法事項が使われているわけではなく、構文もほとんどが「～は、～である」という単純な構文でできています** **Point-3**。

前述したテキスト「介護の言葉と漢字国家試験対策ウォーミングアップ」作成の際に国家試験で使われている文法事項も取り出してみました。結果、テキストにも提示しています

が、国家試験の中の日本語文法は初級の基本文型約 100～110 の文法に 25 ぐらいの文法項目があれば理解できるとしています。

2. 介護福祉士国家試験に必要な日本語力



留学生指導のポイント

Point-1 国家試験で使用される日本語が 100%理解できなくても、読めて、何が書かれているのか、何を聞かれているのか大体わかればよい。

Point-2 一つひとつの漢字の意味を理解し、わからない語彙があっても意味が類推できることが重要。

Point-3 読解力（わからない言葉があったときの意味の類推の仕方、文の意味がとれないときの類推の仕方等）をつけることが必要。国家試験の問題に近いものを活用し、多くの文を読んで読み慣れることが必要。

(1) 介護福祉士国家試験は日本語の試験ではない

前提として、介護福祉士国家試験は日本語の試験ではないという意識をしっかりとってほしいと思います。試験問題に使われている日本語が 100%理解できなくても、読めて何が書かれているのか、何を聞かれているのかが、だいたいわかればよしとしたいところです

Point-1。

では、国家試験の日本語がだいたいわかるためには何が必要でしょうか。それは類推力だと考えます。何について書いてあるのか、何が問われているのかを類推できる力を養っていく必要があります。

(2) 類推力のために必要となる「漢字」、「漢字語彙」、「読解力」

漢字学習は非漢字圏の学習者にとっては、日本語学習の中で困難なものの一つになります。現行の国家試験では外国人は「ふりがな付き」の試験問題を選択できますが、ひらがなは読めても意味はわかりません。前述でも漢字語彙の理解の必要性は説明しましたが、そのためには一つひとつの漢字の意味を理解することが重要になります。一つひとつの漢字の意味が漢字語彙の意味になり、語彙の意味が文の意味になります。わからない語彙があっても、漢字の意味がわかれば語彙の意味が類推できて、文の意味も類推できるようになります **Point-2**。

国家試験だけを考えれば、漢字は書けるようになる必要はありません。読めて意味がわかればよいわけであり、究極は読めなくても、意味がわかればよいということになります。一

つひとつの漢字の意味を理解することが、国家試験の日本語が理解できるようになる近道であると考えます。

(3) 読解力

国家試験の内容を読みとる読解力についてです。まずは多くの文を読んで読み慣れることが必要です。わからない言葉があったときの意味の類推の仕方、文の意味がわからないときの類推の仕方などを学習し、文意を読み取る練習をする必要があります Point-3。日本語の文章であれば、どんなものでも読解力はつけられるかもしれませんが、時間をとって勉強するのであれば、国家試験に近いものを使用するほうが効果的です Point-3。EPA 候補者には、国家試験の事例文を使った読解教材「段階別事例問題読解」を提供しています。

3. 介護専門学習をしながら、どう国家試験に対応できる日本語力をつけていくか



留学生指導のポイント

Point-1 漢字語彙の類推力をつけるために漢字の語彙学習を行うことが重要。

Point-2 留学生にテキスト等を音読してもらうことで、教員は留学生の日本語力・理解力を測ることができ、留学生は自分が読めない、理解していないことに気づく、授業に集中するきっかけができる等のメリットがある。

(1) 漢字学習・漢字語彙学習

漢字の意味の理解が国家試験の日本語の理解につながるということは前述しました。多くの養成校で入学後、日本語学習の授業が組まれていると聞いています。そこでどのような日本語学習をしているかは定かではありませんが、漢字に特化した学習を実施していないのであれば、是非加えてほしいと思います Point-1。その際に注意したいのは、漢字学習といっても、読めること、書けること、漢字の書き順ではないということです。もちろん、上記のものが不要ということではありませんが、まず、一つひとつの漢字の意味、そしてそこから漢字語彙の意味を類推する力を身につけることを指導していただきたい Point-1 と思います。

もう一点、漢字学習で意識してほしいのは、漢字の訓読みです。漢字の熟語は読めても、使われている漢字の訓読みがわからない学習者が多くいます。「担当」はわかるが、「担う」はわからない。「補給」はわかるが、「補う」はわからない。「誤嚥」／「誤る」。「試験」／「試みる」などが挙げられます。「生」という漢字は「先生、生活」など、漢字

としても言葉としても初級の段階で学習するのでよく知っているものですが、「生かす、生じる」を知らない学習者も多くみられます。介護の専門学習でも、国家試験でも、「生かす、生じる」はよくでてくる言葉です。漢字の訓読みは漢字の意味になっていることから、訓読みがわかることは、漢字語彙の意味の類推にもつながることを漢字指導の念頭に置いてほしいと思います。

次に専門学習の中での漢字と漢字語彙の学習について、少し述べておきましょう。

介護の専門学習の中でも、漢字の専門用語は限りなく多くあります。国家試験に向けての重要語彙になっているものです。授業の中で、専門用語の説明に漢字の意味から言葉の意味が理解できるということを加えると、漢字語彙の意味の類推力がついてくると思います。以下、漢字語彙から類推した例を挙げておきます。

※第 32 回国家試験問題にも出題されているものは、（第 32 回）と記載しています

図表：漢字語彙を類推した例

語彙	類推例
自己覚知（第 32 回）	「自」と「知」の漢字から、「自分を知ること」とであると類推する
補足性（第 32 回）	「補」と「足」の漢字から、「足りないものを補うこと」とであると類推する

（2）音読の勧め

授業の中で学生にテキストなどを音読させることがありますか。音読は教員にも学習者にも有用だと考えます。**教員からすると、文を正しく区切れるか、漢字語彙が読めるかなどから、日本語力、理解力を測ることができます。学習者にしても、自分が読めない、理解していないということに気づく、授業に集中するきっかけができるという効果があります**

Point-2。

重要なものは、覚えるまで音読してほしいと思います。先に EPA に提供している読解教材「段階別事例問題読解」を紹介しましたが、指導方法として問題を解き、内容を理解した後は、暗誦できるまで音読することを推奨しています。これにより、文中の専門用語を覚えることができます。また、多くの文を頭に入れることで、発話力、文章力にもつながります。音読、暗誦は小学生のようだとと思われるかもしれませんが、案外効果のあるものです。

授業ごとに一文でもよいので、これだけは覚えたいというものを音読、暗誦することをお勧めします。

(3) 国家試験の問題文の読み取り方

介護福祉士国家試験は日本語の試験ではありません。当然ながら介護の知識がなければ正答に至ることはできません。そして、国家試験で使用される日本語を100%覚えることは難しく、まず、何が書いてあるか、何を聞いているかが、だいたいわかればよしとしましょう。以下、過去の国家試験問題の中から例を出しましたので、ご確認下さい。

※第32回国家試験問題にも出題されているものは、(第32回)と記載しています

① 漢字語彙の捉え方

漢字語彙の捉え方を理解しておけば、熟語等の意味がわからなくても、読み取れる場合があります。

図表：語彙の捉え方の例

語彙	読み取り方
配慮 (第32回)	「慮」の意味を類推すると、漢字の中の「思」に注目すれば、「慮」は「思う」と考えられ、だいたいの意味はとれます
不慮	「慮」は「思う」で、「不」は「ない」ですから、「不慮」は「思わない」と考えます。よく使われる「不慮の事故」は「思わない事故」「思っていなかった事故」と考えられます
閲覧	「覧」の意味を類推すると、漢字の中の「見」に注目すれば、「覧」は「見る」と考えられ、だいたいの意味はとれます
画一化	「一」と「化」は知っています。「一つになる。一つにする」と考えます
挿入 (第32回)	細かい意味はともかく、「入れる」という意味です
設置 (第32回)	細かい意味はともかく「置く」という意味です

② 頻出する言葉

国家試験に頻出する言葉は、おさえておくことが必要です。

図表：国家試験に頻出する言葉の例

語彙	読み取り方
控える	～しないようにする、もうすぐある
促す	～するように言う
勧める	～しましょう、～したほうがよいです、と言う

③ 「する」と考えれば文意が取りやすい言葉

「行う」「営む」「図る」「講じる」「処する」「実践」「実行」「実施」「施行」などは、『する』と理解しておけば文意がとりやすいです。

④ 長い漢字の言葉の捉え方

法律、制度、病気の言葉には長い漢字の言葉が多くありますが、意味の捉え方を学習すれば、言葉の意味するところがわかりやすいものになります。以下のように、漢字は便利なものです。難しいと思わず、捉え方がわかれば容易なものになることを、学習者にも理解してほしいと思います。

図表：長い漢字の捉え方の例

ケース	読み取り方
2文字で区切るとわかりやすくなる場合	<p>漢字語彙は2文字のものが圧倒的に多いですから、基本は2文字で区切ります。第32回の問題で誤答理由に挙げられていた「介護予防日常生活支援総合事業」を例にとると、きれいに2文字ずつに区切れます</p> <p>「介護／予防／日常／生活／支援／総合／事業」</p> <p>区切った上で、一語一語の意味をとっていけば、全体の意味がわかります</p> <p>⇒ 「介護を・予防すること・いつもの・生活をするを・支援する・まとめた・仕事」</p>
属性を表す漢字が含まれている場合	<p>以下の漢字は属性を表す漢字であることが多いので、一文字で区切ります</p> <p>者一人 所一場所 病・症・疾患・炎一病気の名前 剤一薬 法一法律・方法 費一かかるお金 などです。</p> <p>第32回の問題に問題22、33、34の事例文、85、103と5回も登場した介護保険サービス「認知症対応型共同生活介護」を例にとります</p> <p>「認知／症／対応／型／共同／生活／介護」</p> <p>この場合は「症一病気」「型一タイプ・種類」を表します。認知症は区切る必要がないのですが、練習として考えてください</p> <p>区切った上で、一語一語の意味をとっていけば、全体の意味がわかります</p> <p>⇒ 「認知の・病気・に合わせる・タイプで・いっしょに・生活する・介護」</p>
小さい、多いなどの形容詞が含まれている場合	<p>小さい、大きい、などの形容詞も1文字で区切ります</p> <p>小、大、少、多 などです。</p> <p>介護保険サービスの名称「小規模多機能型居宅介護」を例にとります</p> <p>「小／規模／多／機能／型／居宅／介護」</p> <p>「看護小規模多機能型居宅介護」は「複合型サービス」という名称でしたが、「複合型サービス」ではサービスの内容を推し量ることはできません。しかし、「看護小規模多機能型居宅介護」となると何をやるサービスなのかが、文字を分けるとだいたいわかります</p>

⑤ 文の捉え方

事例文、選択肢の中には、わからない言葉も多くあると思います。しかし、一つの言葉の意味がわからないからといって、文全体の意味がわからなくなるでしょうか。わからないことに捕らわれて、文意を見失ってしまうかもしれません。また、その言葉のために、問題が解けないでしょうか。わからない言葉があったら、その言葉を消してみてください。

第32回国家試験の問題1は事例問題ですが、使われている専門用語が難しく、理解できなかったとあがっていた語彙も多かったものです。では、この問題から、理解できなかったとされた語彙を消してみましよう。加えて、学習者が知らないと思われるものをいくつか赤線で消しました。

図表：第32回国家試験問題

問題	読み取り方
問題1	<p>Aさん(78歳、女性、要介護3)は、訪問介護(ホームヘルプサービス)を利用している。72歳から大透析を受けている。透析を始めた頃から死を意識するようになり、延命治療を選択する意志決定の計画書を作成していた。しかし、最近では、最期の時を自宅で静かに過ごしたいと思い、以前の計画のまままでよいか気持ちに迷いが出てきたので、訪問介護(ホームヘルプサービス)のサービス提供責任者に相談した</p> <p>サービス提供責任者の対応として、最も適切なもの一つ選びなさい</p> <ol style="list-style-type: none">1「この計画書は、医療職が作成するものですよ」2「一度作成した計画書は、個人の意向で変更するのは難しいですよ」3「意思確認のための話し合いは何度でもできますよ」4「この計画書は、在宅ではなく病院での治療を想定したものですよ」

どうでしょうか。わからない言葉を消しても、おおよその意味がとれたのではないのでしょうか。ただし、正答が選べるかどうかは介護の知識をいかに習得しているかによります。

4. まとめ：「国家試験で使用される日本語を理解する」とは

一般社団法人 国際交流&日本語支援 Y 橋本由紀江(第三章 監修)

EPA 介護福祉士候補者に対して、国家試験対策指導を10年余やってまいりました。国家試験に臨む彼らに少々乱暴ではありますが、心構えとして、以下の言葉を伝えています。

「わかること、知っていることから考えよう！わからないものは消しちゃおう！」

介護福祉士国家試験に合格するために最も必要なのは、日本語ではなく、介護専門の知識です。介護福祉士資格取得のための学習は、内容も多く、日本語がまだまだの外国人にとって、負担は大きいと思います。日本語の面で、できるだけ苦労しなくてもよいようにと考えてきました。今回の内容が、留学生の指導のヒントになれば幸いです。

1. 本資料の概要

国家資格取得に向けた試験合格のためには、過去問に挑戦するなど、その傾向に慣れることが必要です。なかでも、日本人にとっては容易に理解できそうなことも、留学生にとっては理解が難しいという場合があります。

当協会では、全国にある養成校 53 校から 2 年次の留学生約 410 名の協力を得て、令和 2 年 10 月、試行試験（内容は第 32 回介護福祉士国家試験）を実施することができました。実施方法は、各養成校のスケジュールによって、午前・午後それぞれの問題を別日で、あるいは、領域ごとに日を跨いで実施するなど方法はさまざまでした。

ご協力いただいた養成校には、試行試験実施ののち、採点結果の振り返り時間を設けてもらい、各教員による留学生への聞き取り調査を行っていただきました。そのうち 9 校では、母国語記載の試験問題にも留学生に目を通してもらい、母国語ならわかる、あるいは、わからないなどの意見を出してくれました。本資料は、それらの内容を整理したものです。

各養成校におかれましては、模擬試験実施後の誤回答理由分析を行う際、「留学生はどのようなポイントで問題を間違えやすいのか」その傾向を理解していただくために、本資料を活用いただき、指導の一助にしていいただければと思います。

2. 本資料の活用方法

(1) はじめに

本資料の構成は、以下の①②の二部構成となっています。それぞれ、第 32 回国家試験問題と一緒に読み合わせることを前提に作成しました。

- ① 介護の知識及び日本文化などに関する誤回答理由（第 1 問～第 125 問）：P50～P66
- ② 日本語に関する誤回答の理由（第 1 問～第 125 問）：P67～P83

一つの問題の誤回答理由を知るためには、①と②それぞれを見ていく必要があります。そうすることで、介護に関わる知識不足による誤答か、あるいは、日本語能力の問題による誤答か、どちらの要因がより大きいのかを確認することができます。

以下、具体的に、本資料の読み方を説明します。

【具体例】第 32 回 介護福祉士国家試験問題より

問 14.

自閉症 (autism) の E さん (22 歳、男性、障害支援区分 5) は、就労支援施設に通所している。こだわりが強く、毎月購入している雑誌を処分するとパニックになってしまう。

「障害者虐待防止法」の視点を踏まえて、E さんの気持ちが安定するように、施設の介護福祉職が E さんにかかる言葉として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

1. 「決まりですから捨てますよ」
2. 「読みたい雑誌はとっておきましょう」
3. 「古紙として再生利用しますからね」
4. 「E さんにこの雑誌をあげるわけにはいかないんですよ」
5. 「次の新しい雑誌がきますよ」

正答：2

この問題を、本資料と照合させると、以下のようになります。

① 介護の知識及び日本文化に関する誤回答理由より (P52)

領域：人間と社会 科目：社会の理解 正答率：55% (2 年次 10 月時点) No：問題番号

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤選択 No.	誤答理由 (太字表記：複数回答だったもの)
人間と社会	社会の理解	55%	14	「自閉症」「障害者虐待防止法」	—	自閉症に対する声掛け方法の知識不足/どうすれば (自閉症者へ) 対応できるかわからない/利用者を中心に考えることの理解不足/自閉症に対する支援技術の知識不足/自閉症の対応と認知症の対応が同じになっている/文章は理解できていたが、純粋に間違えていた/自分の考えで答えた/ 2つの選択肢で迷った /選択肢3「古紙として再利用しますからね」という声かけがわからない(リサイクルの仕組みがわからない)

教員が知識・理解不足と考えた項目をキーワード化。この問題では、「自閉症」と「障害者虐待防止法」について、より丁寧な指導が求められます。
※ 複数回答あったものは**太字**にしています

誤選択No.：自明な誤選択No.とそれ以外「—」

「2つの選択肢で迷った」との声が複数、寄せられました。ほかに、自閉症のこと、認知症との違い、リサイクルの仕組みがわからない (= 日本文化や社会への理解不足) といった理由が挙げられました。

一方、同じ問題を、②日本語に関する誤回答理由から読み取ると、

② 日本語に関する誤回答理由より (P68)

領域：人間と社会 科目：社会の理解 正答率：55% (2年次 10月時点) No：問題番号

この問題では、設問文の8語がわからないとの結果になりました。一方、選択肢で不明とした留学生はいません。
※ 複数回答あったものは**太字**にしています。

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文 含む)	選択肢 1~5	
人間と社会	社会の理解	55%	14	「障害支援区分」「就労支援施設」 「 こだわり 」「 処分 」「 パニック 」 「購入している雑誌」「介護福祉職」 「障害者虐待防止法」		選択肢 2. 「とっておきましょう」を「取る」と解釈した/事例の状況がわからない/問題文を読んで、その意味を理解することができなかった/混乱して、日本語の問題だと思った/問題文が正しく理解できていない/日本語の意図がつかめない/日本語の理解不足/使用語彙が分からない/ 意味が分からない /話し言葉は理解しづらかった.例えば、 選択肢 5. 「雑誌がきますよ」の「きますよ」という言葉に引っかかった/言葉かけの言い回しが理解できなかった/日本語での答え方わからない/日本語の話ことばが母国語だとわかりやすかった/ベトナム語で意味がわからなかった

この問題では、「意味がわからない」という声が複数でした。その理由として、事例の状況や選択肢の文章表現が理解しづらいなど、複合的な要因が重なっていることがわかります。解説時間を長めに設定し、設問文・選択肢いずれも、丁寧な指導内容が求められます。

本資料は、聞き取り調査の内容全てを、読みやすく整理したものです。

そのため、同じ誤回答理由のなかには、『全くわからない/文章問題は読むことが気にならず、むしろ文章問題を得意としていた』(P62 問題 85.)のように、全然わからないという声の一方で、得意だとする真逆の声も、全て一つに収めています。あらかじめ、ご注意ください。

また、125問全ての記述を一度に読んでいただくことはもちろん、領域や科目ごとに読んだり、選択肢が「言葉かけ」になっている設問だけ抜き出したりするなど分析の方法は、いくつか考えられます。国試対策担当の教員の皆様におかれましては、同じ問題を取り上げる際の教案作成時に、事前の検討材料にさせていただきたいと思えます。

最後に、調査にご協力いただいた養成校 53 校及び 400 名を超える留学生の皆さんに、貴重な時間を割いていただいたこと、心より感謝申し上げます。留学生の「わからない」が「わかる！」の声になるよう、本資料が活用されることを願っております。

(2) 誤回答の特徴（詳細記載版）

① 介護の知識及び日本文化などに関する誤回答の理由

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤選択No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）
				誤答理由		
人間と社会	尊厳	69%	1	<ul style="list-style-type: none"> サービス提供責任者の役割（社会的） 養護（延命治療を選択する意思決定の） 計画書 	1	設問文にある延命治療という言葉から、「医療職」につなげて考えてしまった/計画書は「医療職」が作成するものだという思い込み/延命治療の計画書を利用者が作成できないと考えた
				<ul style="list-style-type: none"> 権利擁護 	4	困っている＝自分たちの働いている（アルバイト先）の施設に入ると安心できるのでは？と思った
	人間	48%	3	<ul style="list-style-type: none"> 自己覚知 コミュニケーション ラポール形成など介護の基本的視点 	5	「代弁」は知っている言葉だったが、「アドボカシー」につなげられなかった/意思を代弁・・・聞いたことはあるが忘れた/勉強したが忘れてしまった
				<ul style="list-style-type: none"> 高齢者とのコミュニケーションの配慮 	5	選択肢5「自己の価値観を他者に合わせる」だと思った/自己覚知のことはわかったが、正答No.2と5（誤答）で迷った
	社会の理解	50%	4	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステム 自助・互助・共助・公助 地域福祉 日本の法律、（福祉）制度 	5	自己覚知の意味がわからなかった/純粹に自己覚知に対する知識がなかった/自己覚知の意味を深くわからなかった/勉強したが忘れてしまった/言葉の意味はわかっていた/洞察」等意味がわかっても知識がない
				<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革 日本の労働環境 	4	選択肢5「たたくさんの人がいる、にぎやかな場所です」と正答の選択肢1とで悩んだ
				<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度 福祉事務所の役割 生活相談員の業務内容 年金 生活保護 	5	「配慮」することを考え、「表情があまり見えない」選択肢4を選択した 実習先での対応を連想できるため理解しやすい 「社会保障制度」の意味がわからない/公的扶助の理解ができていなかった/「公助」と「共助」の違いがわからなかった/「互助」と「共助」の違いがわからなかった/「共助」は近所の助け合いと覚えていたため(原文のまま)、社会保障制度に含まれないと思った
社会の理解	66%	6	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革 日本の労働環境 	5	「働き方改革」という言葉は知っていたが、試験勉強ではしていなかった/日本の働き方改革が理解できない/「働き方改革」について勉強をしていなかった/バトナムでは働きたい時に働くという考え方のため時間に縛られるという考え方がわからない/働き方を含めた働くイメージがつかめなかった/「働き方改革」の施策を知らなかった/紛らわしかった	
			<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度 福祉事務所の役割 生活相談員の業務内容 年金 生活保護 	1もしくは2	お金がないなら、サービスを使わなければよと思った/選択肢の文に「中止」と書いていたから/「金銭厳しい→相談する」がつかずならなかった/サビ担会議でBさんのやめたい気持ちを伝えると思った/相談したため、ケアマネジャーが関係した選択肢が正解だと思った/利用者の困難の解決先は、ケアマネジャーだと思った/「C生活相談員の対応として」を読み落としていて、選択肢にあるケアマネジャーがすること勝手に解釈してしまった/自分の考えで答えた	

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤答理由												
				選択No.	誤答理由												
人間と社会	社会の理解	35%	8	<ul style="list-style-type: none"> 日本の社会保障制度 社会保障財政 後期高齢者医療制度 	<p>社会保障の財源の整理と使用先が複雑で理解できない/自分の生活に関係のないことには興味が湧かず、理解が進まない/社会保障の細かなところまで覚えきれない/社会保障について全く知識がなかった/制度について想像・理解ができなかった/給付額、対象について把握していない/国の一般会計予算の理解ができなかった/データを勉強したことがなく、知識が不足していた/年号が出てくると苦手</p>												
				34%	10	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防・日常生活支援総合事業に含まれるサービス内容 介護予防 日本の福祉制度 	<p>「第一号被保険者の保険料は、都道府県が徴収する」と思った 言葉は理解できていたが、介護保険制度の被保険者の要件について理解することができていなかった/第二号被保険者の年齢を勘違いしていた/被保険者に関する正確な理解不足/被保険者と保険者を勘違いしている/「医療保険」と「年金」を混同した/紛らわしかった/覚えることが多くて、きちんとした知識になっていない</p>										
						27%	11	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉計画 障害者総合支援法 都道府県・市町村の役割 	<p>要支援者の総合事業という範囲が理解できない/「障害者総合支援法」と「総合事業」が混同されており、わからない/介護保険の介護給付と予防給付の違いがわからない/選択肢 1.「家族介護支援事業」は、介護予防・日常生活支援総合事業ではなく、地域支援事業のなかの任意事業であるが、「任意事業」という意味がわからない</p>								
								36%	12	<ul style="list-style-type: none"> 日本の福祉制度 障害者総合支援法の内容 障害福祉制度 障害福祉サービスの利用手続き 	<p>「障害福祉計画」の実施義務自治体がわからなかった/障害者制度のイメージを理解させることは困難/勉強したことは覚えていたが内容は忘れていた/幅広い知識は難しい/定義、共生社会の在り方 差別といった文言に文化の違いを感じている/市町村、都道府県、厚生労働省（大臣）の大きさの違いがわからない</p>						
										28%	13	<ul style="list-style-type: none"> 共生型サービス 	<p>障害者総合支援法の内容やサービスの流れなどすべてがわからぬ/障害福祉サービスを受けるための条件や手順がわからない/障害者総合支援法の最初の手続きがどこか、市町村？地域包括支援センター？/誰に申し立てをを行うかが申請窓口になるか程度の理解はできているにも関わらず、文章化されると理解できなくなる/地域包括支援センターの業務がわからない（まずは何でも包括という理解）/介護保険法と混同してしまう</p>				
												64%	9	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度の知識 	<p>共生型サービスということと同じような意味として「共同」がついている選択肢 2.「共同生活援助（グループホーム）」を選んだ</p>		
														28%	13	<ul style="list-style-type: none"> サービスの内容や、創設された年月日は覚えていない/介護保険と障害福祉サービスの相対するサービスの知識不足/2018年に創設された共生型サービスの対象となるサービスを理解することができていなかった/現行のサービス移行後のサービス等幅が広く、理解しがたい/共生型サービスの対象を覚えていない/マークシートの場所を間違えた 	<p>サービスの内容や、創設された年月日は覚えていない/介護保険と障害福祉サービスの相対するサービスの知識不足/2018年に創設された共生型サービスの対象となるサービスを理解することができていなかった/現行のサービス移行後のサービス等幅が広く、理解しがたい/共生型サービスの対象を覚えていない/マークシートの場所を間違えた</p>

領域		科目	正答率	No.	学習課題	誤選択No.	誤答理由 (太字表記：複数回答だったもの) 誤答理由
人間と社会	社会の理解	自閉症 障害者虐待防止法	55%	14	・ 自閉症 ・ 障害者虐待防止法	-	自閉症に対する声掛け方法の知識不足/どうすれば (自閉症者へ) 対応できるかわからない/利用者を中心に考えることの理解不足/自閉症に対するの支援技術の知識不足/自閉症の対応と認知症の対応が同じになっている/文章は理解できていたが、純粋に間違えていた/自分の考えで答えた/ 2つの選択肢で迷った /選択肢 3.「古紙として再利用しますからね」という声掛けがわからない(リサイクルの仕組みがわからない)
						-	成年後見制度に関する単語は知ったが内容がわからない/補助「後見」「後見」がわからない/任意後見制度と法定後見制度の違いは理解できていた/成年後見制度の大枠はわかるが具体的な概要についてわかりづらい/制度の理解が十分でない/統計等の最新データの知識不足/ 家庭裁判所がわからない /2つの選択肢で迷った/答えに自信が無かった
						-	生活保護について単語は知っていたが内容はわからない/問題の意味がわからなかった/ 補正性の原理は学んだ記憶はない /生活保護法の資産の活用能力の活用の知識不足/生活保護法の原理・原則の具体的な内容が理解できていない/憲法 25 条の生存権に関する知識不足/法律の名前は覚えにくい/迷って違つて違つたのを選んでしま
	介護の基本	生活保護法 日本の福祉制度	20%	16	・ 生活保護法 ・ 日本の福祉制度	-	生活保護について単語は知っていたが内容はわからない/問題の意味がわからなかった/ 補正性の原理は学んだ記憶はない /生活保護法の資産の活用能力の活用の知識不足/生活保護法の原理・原則の具体的な内容が理解できていない/憲法 25 条の生存権に関する知識不足/法律の名前は覚えにくい/迷って違つて違つたのを選んでしま
						-	後になって読み返すと正解がわかっている。試験で解いている時に焦りなどで誤ったのではないかと思ふ/生活の継続性についての理解不足 (可能な限り、在宅生活を継続できるような支援方法) /日本語の解釈ができないことで、助言の言葉かけが、選択肢 5.「新しいコーヒーマーカーを買ってはどうですか」以外はどれも適切と思った
						1	(設問文中に)「長い髪をセットしてもらいたい」という文があるので、選択肢 1「洗髪しやすいように」を選んだ
介護	介護の基本	脳卒中 ノーマライゼーション	66%	18	・ 脳卒中 ・ ノーマライゼーション	5	片麻痺があれば、安全のために車いすを使用すると思った
						-	「ノーマライゼーションの考え方を踏まえ」を読み損ねた/俳句教室を知らない/俳句教室の意味がわからない/意味はわかるが正解を探せない/選択肢 3.と 4.で迷った
						4もしくは5	ICFについて、また理解が不足している /ICFの構成要素を十分に覚えていなかった/ ICFの環境因子と心身機能の知識不足 /ICFは難しい/環境因子と心身機能の関連を表す」という記述に戸惑う/考えにくい/理解できたが間違えた、環境因子、心身機能意味わからない/具体的な内容(実際の内容)をICFに分類することが難しい/ICFはわかっていたが、適切なものを選ぶことができなかった/意味はわかるが正解を探せない/純粋にミス/ 選択肢 4.と 5.で迷った / 2つの選択肢で迷った /マークシートの塗る場所を間違えた

領域	科目	正答率	No.	学習課題	選択No.	誤答理由
				誤答理由(太字表記:複数回答だったもの)		
介護	介護の基本	68%	20	・ アルツハイマー型認知症 ・ 利用者主体の視点	1もしくは4 2	選択肢 1. (正答) と 4. とで迷ったが、4.の方が適切だと思った (選択肢 4.「整理整頓のため、(中略) 掃除機を押し入れに片づけた」) 「手ぬぐいより「バスタオル」の方が良いと思った 認知症の生活環境への配慮について理解ができていなかった/「利用者主体の対応」を行っていることが理解できない/利用者への受容に関する認識不足/選択肢 1.「畳で布団の使用」がイメージできなかった/布団を使って寝ること(ベッドを使わないこと)の意味がわからなかった/意味はわかるが正解を探せない/問題はイメージできた/2つの選択肢で迷った
		45%	21	・ 高齢社会白書の最新データ	3	風呂場が最も事故が多いと思っていた/事故＝転倒と思い、転倒が多い場所は浴室だと思った/事故発生頻度の頻度において、危険と思いやすいところと考えたようである
		42%	22	・ 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)での介護 ・ 介護の基本	3	意味はわかるが、正解を探せない/日本の家庭環境(住環境)への理解不足 選択肢 3「現在よりも過去の身体的・精神的状態の把握が優先される」ことが必要だと思った サービス・種別の理解ができない/グループホームは理解できるが、正答は理解できない
		41%	23	・ 訪問介護事業所 ・ サービス提供責任者の役割	-	「責任者＝上の立場の人」はわかった/介護職の職務内容についての知識不足/それぞれの役割を区別できていない/ケアマネの業務や社会福祉協議会の業務の知識不足/「施設」のことは理解しているが「訪問介護」がわからない/訪問介護に関する知識不足/居宅サービス計画書をもとに訪問介護計画書を作成するという流れを理解していなかった/サービス計画書の事をあいまいにわかっている/居宅サービス計画を作成する人(職種)が理解できない/ケアプラン、個別介護計画書に関する知識不足
		51%	24	・ 多職種連携 ・ 民生委員の役割	-	利用者主体の視点が理解できていない/解答に悩んだ
		70%	25	・ 介護福祉職の倫理	1 5	選択肢 1.「利用者の要望を優先すること」が1番適切だと思った/選択肢 1.か 3. (正答) が答えに迷った 選択肢 5.「施設の廊下で職員同士が打ち合わせを行うこと」が倫理に反することの意味がわからな
		60%	26	・ MRSA (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)	1 -	アルバイト先の施設がグループホームで小規模の為、入所者全員の保菌の有無を調べることが容易だと考えた ブドウ球菌について勉強したが、その特徴は覚えられない/接触感染に対する知識不足/スタンダードプリコーション(標準予防策)の意味がわからなかった/知識として知らない

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤選択No.	誤答理由
				誤答理由(太字表記:複数回答だったもの)		
介護	コミュニケーション	27%	27	・ カウンセリング技法 ・ コミュニケーション技術	2	選択肢 2.「うなぎやあいづち」が必要だと思った。 「直面化」という手法が普段の受容的な関わりと違うため誤解していた/選択肢のなかに、「指摘する」という言葉があったので、選択肢 1. (正答) を避けてしまった/日本人なら漢字の意味を想像して解釈できる/共感が根底にあるが、ただ無防備な共感とは違うという知識の不足/「共感」と勘違いしていた/紛らわしかった/ 「直面化」という言葉は勉強していたが、適切な答えを選べなかった/授業で習ったはずが、憶えてないと…勉強不足/1.か 5.か答えに迷った/2つの 選択肢で迷った
					61%	28
		41%	29	・ 構音障害のある人への対応	-	「構音障害」と「失語症」の区別がつけられない/勉強したが忘れてしまった/全体的に、 選択肢の文章が間違えやすい/正答選択肢 2「聞き取れないところを再度言うてもらう」ことは相手にとって不快なのではないかと考えた/2つの選択肢で迷った
		67%	30	・ 視覚障害者	4	設問文「視覚障害者」はわかっていたが、 選択肢 4.にある「控える」の言葉の意味を良い意味としてとらえてしまい、誤回答を選択した
		48%	31	・ 知的障害を伴う自閉症利用者への受容	-	視覚障害者とのコミュニケーション方法がわからない
					5	理由を尋ねる方がよいと考えた/理由を明らかにすることを主として考えた
		65%	32	・ 家族介護者への対応 ・ 利用者主体の視点	-	どれが正しい言葉か知らない/わからない/就労継続支援事業所へ実習に行った学生以外はわからない/自閉症の特徴とふさわしくない声かけとの結び付けが難しかった/どの対応も間違えではないのではと考えた/違いがあまりわからない/先に話した方がよいと経験から選択肢を選んだ (→どの選択肢を選んだかは不明) /選択肢 4.(正答) と 5. (誤答) で迷った 2つの 選択肢で迷った
		69%	33	・ 認知症者への対応方法 ・ コミュニケーション	-	グループホームに入居している方の居室を訪問した時の対応についての知識不足/意味はわかるが、 難しい/単純に間違えてしまった/集中力が切れていた
		53%	34	・ 介護記録の方法	3	実際の介護記録にはそのように記入すると考えた
					-	記録方法がわからない/ 客観的事実を表す介護記録がわからなかった/客観的事実の内容の理解不足/「客観的」と「主観的」がはっきり区別できない/客観的事実の意味を間違えていた

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤答理由 (太字表記：複数回答だったもの)
				誤答理由	選択No.
介護	生活支援技術			地震対策	<p>1 「(家具には) キャスターをつけることが大事だと思った 選択肢 4.「外への避難経路は、玄関の1方向とする」と選択肢 5. (正答) で悩んだ 4 もしくは 5 災害に対するイメージが湧かないため、設問全体がイメージしづらかった/ニュースなどで知らない(原文のまま)/緊急時のイメージが日本の生活環境の理解不足で答えられなかった/地震という災害への備えをする文化がないため/地震災害の経験がないので、災害時の対応が良く理解できない/施設での介護の経験はあるが、居住になるとわからなくなると問題の意味がわからなかった</p>
				介護保険の給付対象となる住宅改修	<p>4 選択肢 4.「手すりを設置できる」という部分が正答だと思った/「取り外し可能」は(介護保険の給付) 対象にならないことを知らなかった</p>
				住宅改修	<p>住宅改修という意味をしっかりと理解できていれば、正解できたかもしれない/住宅改修の具体的な改修工事や内容がわからない/住宅改修時の介護福祉職が助言できる内容を知らなかった/介護保険の内容を理解できていない/介護保険の給付の詳細について勉強しなければならぬ(正答選択肢 3.)「滑りにくい床材」に変更できなかつた/勉強したが忘れられた/和式修繕の上に腰掛便座・腰かけ便座・取り外し可能な手すり→日本の習慣に関連していることから、イメージしづらいのでは/質問の内容が理解できていない</p>
				ユニバーサルデザイン7原則	<p>ユニバーサルデザインの概念がわからない/ユニバーサルデザインの具体的な内容が日本語でわからない/7原則、忘れた/その他関連する用語との違いについて理解不足</p>
				高次脳機能障害の着衣介助の方法	<p>3 選択肢 3.「着衣の前に全ての手順を口頭でいうこと」がなぜ悪いかわからない 高次脳機能障害の意味、特徴、症状がわからない/高次脳機能障害の身体的状態を理解していなかった/失行のある利用者への対応/着衣失行に関する知識不足/失行の症状がある方に対する介助についての知識不足/失行、高次脳がわからない/生活支援と障害についての理解/正答選択肢 2.「衣類に印をつける」は間違いだと思った</p>
				更衣介助	<p>手指の細かい動作が難しい利用者に対する更衣介助の理解不足/更衣に関する物品の知識不足/福祉用具の知識がない/ボタンエイド・ソックスエイドの知識不足/日常的にボタンやデザインの言葉を知る機会がない/2つの選択肢で迷った</p>
				身じたくの介助	<p>5 アルバイトの施設でPTがよくいろいろなるものを直しているのでは、選択肢 5「理学療法士は、身体状況に合わせて衣類を作り直す」と混乱した</p>
					<p>専門職それぞれの役割の把握・理解不足/介護老人保健施設の専門職役割の知識不足/多種の業務や他職種への理解不足、うる覚え/糖尿病の知識不足/医行為に関する知識不足/選択肢 2.「支援相談員」を、勝手に介護職の人だと思った/(選択肢 4.に関連して) 戸切りは介護士がしてもいいと思ったが、よく読むと「糖尿病」と書いてあった(ので、選択肢 4.が正答)</p>

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤選択No.	誤答理由
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
介護	生活支援技術	69%	41	・ 移乗介助の手順	-	ベッドから車いすへの移乗の介助の知識不足/介助の順番を間違えた/問題文を誤って解釈していた/移乗介助の流れが文章になると整理できなかつた/勉強したことが忘れた
		55%	42	・ 重心線と図解	-	重心について考えていない/設問文をイメージすることができなかつた/思考的判断不足/身体移動の意味を勘違いしていた/勉強したことが忘れた/誤答選択肢 1.と正答選択肢 2.で悩んだ
		58%	43	・ 麻痺のある方への階段昇降の手順	-	階段昇降時の介助に対する知識・理解不足/階段昇降の「杖歩行」は理解できていたが、「手すり(を利用して)」になつたことで答えがわからなくなつた/正答選択肢 4.「利用者の右前方に立つ」は邪魔だと思つた/右片麻痺に関する知識不足/階段を下りるとき足の出し方を間違つて覚えていない/右側(麻痺側)に立つことはわかつたが、前方が後方かはわからなかつた/複雑で理解できていない/階段昇降の問題は紛らわしく混乱する/昇降の勘違い/動き方を忘れていた/勉強したが忘れた
		33%	44	・ バランスガイド ・ 日本の食事	-	食事や栄養に関する知識・理解不足/体格指数 (BMI)、栄養に関する知識不足/体重が減少した方に対して必要な食事に関する知識不足/タンパク質が主菜にあるという理解不足/主菜と副菜の区別がついていなかった/主食・副菜・主菜の食文化の理解不足/日本食の名前はわからない/お茶漬を知らない/お茶漬やうどんを知っているが、日本の主食だと思つている/問題文を理解することができたが、正しい答えを選択できなかつた/勉強したが忘れた
		63%	45	・ 食事の姿勢	-	椅子に座つて食事をする利用者の姿勢に関する知識・理解不足/勉強したが忘れた/知識が無かつた/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでなかつた
		55%	46	・ 疾患名とその栄養面からみた予防	5	選択肢 5「逆流性食道炎の予防として、食後すぐ横になる」→食べて横になることはよいことである(ネパール)
		52%	47	・ 半側空間無視の方の食事介助	2	高齢者の食生活に関する知識不足/高齢者の食生活への助言、わからなかつた/胃粗鬆症、ドライマウス、逆流性食道炎に関する知識不足/いずれも、正確に理解できていない/ビタミン D に関する知識不足/2 つの選択肢で迷つた/勉強したが忘れた
		52%	47	・ 半側空間無視の方の食事介助	-	半側空間無視は理解しているが、右を意識させたかたから選択肢 2「トレーの右側に印をつける」にした
		52%	47	・ 半側空間無視の方の食事介助	-	半側空間無視のある利用者への介助に関する知識・理解不足/半側空間無視の利用者への食事介助をイメージするのが難しかつた/障害に応じた介助についての理解不足/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでなかつた
		40%	48	・ 清拭の手順	5	選択肢 5「皮膚については水分は最後にまとめて拭く」が正解だと思つた
						このような身体援助に係る問題の正答率は高い(この養成校での正答率は 80%) /施設で実際にやっていることと違う/勉強したが、忘れた/よく読まなかつた/マークシート記入間違え/集中力がさげられた

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤答理由 (太字表記：複数回答だったもの)	
				誤答理由	誤選択No.	
介護	生活支援技術	60%	49	・ 利用者の状態に応じた入浴の介護	2	3. (正解) だと思ったけど、2.を回答した 選択肢にある障害や病名の内容がわからなかった/選択肢に複数の状態と介助方法が出てきたため、正しく結びつけることが難しかった
		58%	50	・ ポータブルトイレに関する支援	1	施設では、選択肢 1.の「Aの場所」に設置している ベッドサイドでのポータブルトイレの位置について理解が不足している/片麻痺のある利用者の介護に関する理解不足/文章とイラストを見て、左右を考えるのが難しかった/健側に移動した方が良いと考えて判断している/身体援助の正答率は高い (この養成校での正答率 82.8%) なんでも看護師にやってもらった方が良いと思っている (選択肢 5「尿量の確認は看護師に依頼する」)
		62%	51	・ 膀胱留置カテーテル「探尿バッグの取り扱い	5	解熱を目的とした座薬の挿入について知らなかった/腹式呼吸への知識不足/問題は理解できるが、選択肢を間違った
		58%	52	・ 座薬	-	解熱を目的とした座薬の挿入について知らなかった/腹式呼吸への知識不足/問題は理解できるが、選択肢を間違った
		31%	53	・ 食中毒の原因菌	-	出題された菌の名称を覚えていない/菌の名前がはじめて聞いたものばかり/翌日も食べるのなから問題ない」と考えて、答えがわからなかった/勉強したが忘れた/ひとつひとつわかっていなかった/問題は理解できるが、選択肢を間違った
		58%	54	・ ノロウイルス	-	嘔吐物の処理に関する知識不足/感染症対策の対応方法を理解できていなかった/医療的ケアで習ったが、間違えた/ノロウイルスの知識あり、職場で対応したことがある/選択肢を絞るのが難しかった
		36%	55	・ 消費者問題	-	消費生活センターが身近ではないため選べなかった/消費生活センターの存在を知らない/選択肢の専門機関 (行政書士 家庭裁判所 保健所 相談支援事業所) とその役割がわからなかった/サービス提供責任者について知らなかった/クーリング・オフを知らない/物品売買契約書「消費者の制度」が理解できていない/日本の相談する相手が状況によって変わることがわからない/手続きの相手がわからない/母国語に行政書士や家庭裁判所などの言葉はない/答えを迷った/ネットでも上手く調べることができず、諦めてしまっ/覚えていなかった
				・ 不眠	4	アルバイト先ではお茶は健康に良いと聞いていたのでお茶が正解だと思った/バトナムはお茶を飲んで、寝る習慣がある/温かいお茶なら良いと思った/温かいお茶はリラックスできる/茶葉にこだわらず、飲んでいいものだと思った/昼寝、緑茶の生活習慣/お茶の違いがわからなかった
		50%	56		-	「体内時計」「メラトニン」「視床下部」に関連する知識不足/眠れないと訴える高齢者への助言、わからなかった/後になって読み返すと正解がわかっているため試験で解いている時に焦りなどで誤ったのではないかと考え/勉強したが忘れた/正しい対応の仕方を間違えて選んだ/選択肢を絞るのが難しかった/問題が難しかった/日本文化の理解不足

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤答理由	
				学習課題	誤答理由	
介護	介護支援技術	41%	57	安眠を促す環境	選択肢2「身体に密着した形を選ぶ」のが大事だと思った	
					選択肢3「冷暖房の風が体にあたると良い」と思った	
					-	生活支援技術の環境調整の知識不足/適切な湿度が何%かわからない/環境を整える「かわかなかった/勘違いをした/問題が難しかった/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでなかった/職場では（利用者が）よく眠れている。自分たちの声や足音が雑音だとは思っていない
					2	選択肢2.「服用後、一時間起きていてもらう」のは、副作用があるかみたいからだと思った
					-	服薬判断に関する知識不足/不眠の状況（睡眠薬を服用する高齢者）に対する職員としての「適切な対応」がわからなかった/正答の選択肢3.「医師への報告」は医療職が行うと理解している/答えがわからなかった/勘違いをした/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでなかった/2つの選択肢で迷った
					3	呼吸が苦しいなら、選択肢3.「痰の吸引」したら良いと思った/呼吸を楽にする方法が適切だと思った
					5	呼吸できなくなると不安なので、選択肢5.「すぐに救急車」を呼んだほうが良い
					-	終末期の身体的特徴（死前喘鳴）に関する知識不足/家族介護者への声かけの仕方がわからない/勉強したが忘れた/1.と4.で悩んだが、日本語の捉え方を間違えた/2つの選択肢で迷った/答えを迷った
					1	選択肢の専門用語がわからず「ペースメーカー」は単語として意味はわかったので、多分これが正答だと思った
					2	施設では看護師が、選択肢2.「口が閉じない場合は紐で顎を固定する」を実施していたので、そうだと思った
					-	介護職が行う死亡後の介護について知らなかった/死亡後にも介護がいるのか不明だった/死亡直後は家族が悲しんでいるから、介護を一緒に行うことを確認するのはできないと思った（←正答選択肢5.）/死んだ後、介護福祉士と家族と一緒に葬式ができると思った/問題が難しかった/集中できなかった/死後の処置についての文化/日本の文化が関係しているのではないかと思い、難しく考えてしまった
					5	選択肢5.「利用者の生活習慣を改善する」とは、QOL向上だと思ったので、これにした
					-	介護計画が何かわからなかった/介護過程の作成に対する理解不足/介護記録の書き方と混同した/選択肢5.「計画の見直し」とは「評価」と解釈してよいかかわからなかった/問題が難しかった
-	介護計画が何かわからなかった					
53%	63	介護計画の実施	-	介護計画が何かわからなかった		

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤選択No.	誤答理由 (太字表記：複数回答だったもの)		
				介護過程の展開の基礎		誤答理由		
介護過程	介護過程	57%	64	・ 介護過程の展開の基礎	4	介護職員が行う介護過程の意義よりも、医療職のような視点に立ってしまっていた (選択肢 4.「尿失禁に対応する介護計画の実施を優先する」を選んだ) 脳梗塞に関する知識不足/再アセスメントすることは間違っていると思った (→正答選択肢 2.) / 勉強したが忘れた		
		42%	65	・ 介護過程の展開の基礎 ・ 短期目標	4	事例文 (「レクには積極的に参加するなど意欲」) に感服されて、選択肢 4.「意欲的に歩行訓練に取り組み」を選んできました/4.と5.で迷った 短期目標のレベルが読み取り切れなかった/短期目標、長期目標の理解不足/長期目標と短期目標を混同した/事例の方の短期目標を正しく選べなかった/介護過程の展開は、「自立支援と思いをICF から読み取るが、短期目標に課題とした思考を持つ傾向がある/優先順位の考え方が誤った/なぜ、高齢者を手助けすることがいけないのか? (過剰介護) /選択肢で迷った/よく読めばわかった/勉強したが忘れた		
		60%	66	・ 介護過程の展開の基礎	-	高校野球 (部活動と甲子園) や体育の授業など文化の知識不足/部活の先生と体育の先生の違ふ/某留学生の国では、高校生になると、体育の授業が始まらない/部活のイメージもなく、高校野球に対する思いを理解することは難しい/中国では体育の授業が少ない/事例文「学生を全国大会に連れていけないかったのは私の責任だ」→日本人の責任に関する意識はわかりにくい/時間足りなかった/答えがわからなかった/問題の内容がわからない/2 つの選択肢で迷った/記入もれ		
		50%	67	・ 介護過程	1もしくは3	選択肢 1.と選択肢 3. (正答) で迷った (言葉は理解している) /選択肢 1.と選択肢 3.で迷ったが、選択肢 1. (体操に対する関心を取り戻す) のほうが正答だと思った/選択肢 1.と選択肢 3.で悩む者が多かった 選択肢 2「体操の内容を変更することだ」と思った 「なぜ? 」という本人の思いをくみ取ることが、日本人・留学生ともに難しい/今のDさんの状況から、今後も、現在の役割として、Dさんは何を取り組むべきかを理解できなかった/自分だったらどう関わるか想像して選んだが、違っていた/文章を読んでDさんの気持ちを知らなかった/難しい/なぜ、高齢者を手助け (過剰介護) がいけないのか? /考え過ぎただけ/2 つの選択肢で迷った		
		47%	68	・ 介護過程	-	「思いをくみ取る」という本人の意思の尊重をくみ取ることが難しい/日本人独特の感情であり、理解できなかった/なぜ、高齢者を手助け (過剰介護) がいけないのか? /あるいは、高齢者には判断を任せるより自分たちが導いていくなどの考えが根強い。弱者という立場が職場にもあるのかもれない/よく読めばわかった/2 つの選択肢で迷った		

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤選択No.	誤答理由 (太字表記：複数回答だったもの)		
				誤答理由				
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	46%	69	<ul style="list-style-type: none"> 成長と発達 乳幼児期の発達 	-	1歳3ヶ月の子の様子を説明する用語の知識不足/選択肢の専門用語 (3か月微笑・社会的参照・クーイング・自己中心性・二項関係) すべてわからなかった/クーイングなど、言葉がわからない/乳幼児期の発達段階は日本人学生も同様に理解が難しい/読めるが難しい/専門用語が難しい/言葉を見えにくい/言葉に親和性がないので覚えられない/細かい意味が十分に理解できなかった/選択肢の用語、授業内で学習できていなかった/2つの選択肢で迷った		
				<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の年齢規定 	-	各法律とそれぞれ内容の理解不足/高齢者虐待防止法などの法律について、暗記していないのでわからない/法律が規定している細かい内容の把握ができていない/高齢者虐待防止法を理解していない/高年齢者虐待防止法は75歳からだと思った/日本の法律や制度がわかりにくい/高齢者の道路交通法等は、母国には制度がなく、かえて明白いと記憶している/介護の知識がなかった/高齢者の運転について知らなかった/全て読むと、わからなくなってしまう/読めるが、難しい/2つの選択肢で迷った		
		56%	71	<ul style="list-style-type: none"> 嚥下機能の低下の原因 	-	摂食嚥下の5分類を理解していなかった/嚥下機能に関わるからだの部位の変化理解できていなかった/医学的な部位の名称を理解していない/喉頭の拳上⇒喉頭蓋の動きは理解しているが、喉頭の拳上と結びつかなかった/読めるが、難しい/全て読むとわからなくなってしまう		
		68%	72	<ul style="list-style-type: none"> 老年期の記憶 記憶と注意機能 	1	選択肢1「若い頃の記憶」は、40歳代だと思った		
		42%	73	<ul style="list-style-type: none"> 心不全 姿勢による呼吸の変化 	-	老化についての理解が低い/老年期にはどのような影響が起こるのか日本語で理解できていなかった/「エピソード記憶・意味記憶・手続き記憶」は、何回も模試を行い理解していたが、具体的に事例を出されると戸惑った/読めるが難しい		
		63%	74	<ul style="list-style-type: none"> 心不全 姿勢による呼吸の変化 褥瘡の原因 褥瘡と排泄 	-	虚血性心疾患である狭心症や心筋梗塞を口頭試問すると、理解できていた/考え過ぎただけ/読めるが、難しい/間違えて覚えた		
		57%	75	<ul style="list-style-type: none"> 栄養状態を良好に維持するための方法 	-	皮膚の症状について理解していなかった/皮膚トラブルなど各教科で説明している/皮膚の状態と体位変換を結び付けられなかった/読めるが難しい/2つの選択肢で迷った		
		44%	76	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病 多職種の内容 各専門職における業務の範囲 	-	高齢者の栄養を支えるケアに関する知識不足/老化についての理解が低い/歯のことなので栄養には関係ないと考えた(←正答選択肢1「歯科健康診査を受ける」)/タンパク質についての理解不足/選択肢を絞ることができたが、2択で迷った/選択肢1と2で迷った		
								専門職の役割、とりわけ、介護支援専門員や理学療法士の役割が理解できていなかった/ケアマネは、訪問リハビリとは関係ないと考えた(←正答選択肢5)/糖尿病の理解はあっても、在宅復帰を想定(設問文では「自宅療養」と表記)した他職種(多職種)の役割の理解不足/糖尿病というワードだけで考え、選んでしまった/専門職(多職種)の名前は聞いたことがあるが、具体的な業務の違いについて知っているつもりであったが、問題になるとわからなかった/各専門職の役割は理解できていても、日本語表記から関連づけが難しかった/説明を聞いたから、わかっていた/2つの選択肢で迷った

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤答理由	誤答理由
				学習課題	選択No.	
こころとからだのしくみ	認知症の理解	48%	77	・ 認知症高齢者の推計値 ・ 高齢社会白書の推計値 ・ オレンジプラン	-	数値を覚えるのが大変/年号のある問題に関する苦手意識/言葉は理解できていた/言葉は読めるが、内容の意味がわからない/勉強したか忘れたことを忘れた/単純に覚えていないのでわからなかった/年代別や時事問題は学習不足/情報を知らなかった/全くわからない/統計数は親和性がないため、覚えにくい/日本の人口問題など数値を覚えることが難しく、問題が変わるとわからなくなる
				・ 中核症状とBPSD症状	-	中核症状とBPSD症状の違いが理解できていない/中核症状の意味がよくわからないので、BPSDとの違いもわからない/中核症状は理解できるが具体的な症状がどのようなかの理解が不足/中核症状とBPSDを覚えていなかった/区別できなかった/全くわからない/認知症の症状はどれも当てはまると思った/認知症の人が周囲にいないので理解できない(ベトナム)/説明をしたから理解できた
				・ せん妄	-	薬の副作用についての知識不足/言葉は読めるが、内容の意味がわからない/選択肢5「幻覚」症状はよく理解できていたが、見え方の問題が見える」こと、視力の問題だと思っていたため間違いにつながっていた/全くわからない
				・ 認知症の初期症状 ・ 各認知症の特徴と症状 ・ 正常圧水頭症 ・ レビー小体型認知症	-	認知症の分類は理解していたが、具体的な症状が認知症の分類と照合できていなかった/原因疾患を理解していなかった/選択肢3「エピソード記憶」の理解が乏しかった/全くわからない/内容がデーターすぎて理解できなかった/言葉は読めるが、内容の意味がわからない/間違えて覚えた/レビー小体型認知症とアルツハイマー型認知症の理解は深い/年齢・性別・特徴を重視した学習を行っていたため正常圧水頭症は、(早期発見できる) 治る認知症という理解があった
				・ 認知症の発症リスクを低減する方法	-	全くわからない/純粹に間違えた/忘れてしまっている/勉強したが忘れました
				・ 抗認知症薬	-	認知症それぞれの特徴、症状に対する理解不足/認知症の方が薬を服用していることは知っていたが、効能まで把握してなくて間違えた/関連する薬剤の効果や効能の知識不足/抗認知症薬の効果を理解することができていなかった/全くわからない
				・ 前頭側頭型認知症	-	「前頭側頭型認知症」の名前は知っていたが、症状までは把握していなかった/選択肢3「常同行動」についての理解不足/マークシート記入間違え
				・ アルツハイマー型認知症の対応方法	1	「パソコンの操作に対してイライラして怒りっぽくなった」と(設問文に) 書いているからパソコンはだと思った(=選択肢1「パソコンの処分」を選択)
				・ 4	選択肢4「薬物治療について主治医に相談」を回答する者が多かった	
				・ 5	設問文「最初に言う」を見落としており、選択肢5. (「施設入所についてケアマネに相談」) を選んだ	

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤選択No.	誤答理由
こころとからだのしくみ	認知症の理解	54%	85	グループホームでの介護福祉職が果たす役割	3	在宅支援の家族の役割の想像力の欠如/言葉がけに対する知識不足/全くわからない/怒りっぽくはないから/パソコンの使い方の手助けすると、もっと怒ると思った(←正答選択肢2。)/ネパールでは判断が異なる。できることはすぐ行う/文章問題は読むことが気にならず、むしろ文章問題を得意としていた/2つの選択肢で迷った/正答の理由がよくわからない
				介護福祉職と関連職種それぞれの役割		介護支援専門員の役割がわからない/地域ケア会議がわからない/グループホームに看護師はいないと思った/問題で聞かれていることをよく理解できていなかった/認知症であることだけ考え、骨折していることを考えなかった/全くわからない/文章問題は読むことが気にならず、むしろ文章問題を得意としていた
				他職種の仕事内容		本人の望んでいる(車の)運転をしたほうがいいと思った
				相談を受けた介護福祉職の(家族介護者に対する)助言		「老人クラブに参加することや音楽を流して気分転換すること」はいいことだと思った/「怒りっぽくはない」ワードから、音楽を流してリフレッシュすることが良いと思った
						「Eさんが怒りっぽくはない」=認知症の初期症状=かかりつけ医への診断」という流れが理解できていない/文章を読み取る力が不足している/「怒りっぽくはない」「覚えていない」が増えた」が認知症につながる/問題の意味がわからない/勉強したが忘れた/全くわからない/2つの選択肢で迷った/どの回答も正解のように思った/文章問題は全員読むことが気にならず、むしろ文章問題を得意としていた
	障害の理解	26%	89	筋ジストロフィー	-	障害の概念について/勉強したが忘れた
				脊髄小脳変性症		共生社会についての知識不足/「法律」に関するものはわからない/法の解釈が難しい/日本の法律が難しい/それぞれの法律の位置づけ等がわからない/法制度の知識不足/障害者差別解消法、合理的配慮、共生社会、など全てにおいてわからない/合理的配慮の内容理解不足/障害者差別解消法については養成校で習ったので知っていたのでできた
				脳血管疾患		脳性まひに関しては理解不足が多い/脳性まひについては、タイプ、事例をもって学習した/「不随意運動」という言葉は知っていたが、「痙直型」という言葉を知らなかったため、間違えた/神経障害等学習不足/疾患名と症状が結び付けられなかった
				脳性麻痺		
				脊髄損傷		
	43%	90	内因性精神障害	-	障害・病気の知識と理解の不足/内因性、外因性、心因性、それぞれの障害特徴がわかっていた/なかった/選択肢3.「パニック障害」や選択肢5「統合失調症」がわかっていた/いなかった	
			精神疾患			

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤選択No.	誤答理由
				誤答理由 (太字表記: 複数回答だったもの)		
こころとからだのしくみ	障害の理解	41%	91	<ul style="list-style-type: none"> 知的・身体・精神等障害の制 度やサービス 知的障害者の地域移行時の 社会資源やサービス 障害者福祉のグループホーム 知的障害者が施設入所してい る事と支援 	5	<p>選択肢 5.「同行援護」は視覚障害者が利用できるサービスであることを忘れており、誤答した</p> <p>「地域移行支援」等「障害者総合支援法」は知識が定着しない/選択肢 2「グループホーム」は認知症高齢者が入所するところだと思っていたから、障害者のグループホームの選択肢は間違っていると思ってしまう、間違えた(選択肢 2 が正答) /グループホームは高齢者しかいないと思った/選択肢 1.~4.それぞれの施設(ケアハウス・共同生活援助・自立支援医療・精神科病院) に関する知識不足</p>
				<ul style="list-style-type: none"> 自閉症の特性 	-	自閉症スペクトラム障害が学習障害であると勘違いした/自閉症スペクトラム障害は授業で習ったので簡単だと思った
				<ul style="list-style-type: none"> ALS (筋委縮性側索硬化症) の特徴 	4	ALS は関節に痛みがあると記憶したため、選択肢 4.「運動失調が現れる」とした
				<ul style="list-style-type: none"> 障害受容のプロセス 	-	パーキンソンと混同している/疾患名と症状が結び付けられなかった/ALS 患者に会ったことがないので理解ができなかったが、勘で当たった (実は、よくわからなかった)
				<ul style="list-style-type: none"> ホーエン・ヤール重症度分類 パーキンソン病のステージ 	-	糖尿病 (特に、糖尿病性網膜症) がわからなかったため、難しく感じた/「糖尿病性網膜症」ペトナム人はわからない/障害受容のプロセスを文章にするとわからない/「混乱期等」の選択肢であれば何とか少しはつなげたかと思つた
				<ul style="list-style-type: none"> ホーエン・ヤール重症度分類 	-	パーキンソン病は知っていたが、ホーエン・ヤール重症度分類については聞いたことがなかったので、間違えた/ヤールの重症度分類を習っていない/生活機能分類で理解させていたが、もう一つ読みが足りぬ
				<ul style="list-style-type: none"> 地域の社会資源 民生委員 	-	日本の社会制度がわからない/日本の制度やシステムに馴染みがないので、イメージができない/地域連携についての理解不足/社会資源について理解していたが、説明をすると理解が間違っていた/勉強したが忘れた/答えを間違えた人が多かった
				<ul style="list-style-type: none"> マズローの欲求階層説 	-	「所属・愛情欲求」の言葉の方が、選択肢にあれば何とか選べることできたと思つた/勉強したが忘れた
				<ul style="list-style-type: none"> 大脳の仕組みや機能 	-	大脳局部の部位の機能の混乱/脳の部位名称と役割が覚えられない/頭頂葉に体性感覚野があることを知らない/皮膚の痛みの感覚についての知識不足/痛みと局在の部位の理解不足/脳の構造の理解不足/ウェルニッケやブローカーは理解している
				<ul style="list-style-type: none"> 爪と疾患の関係 指・爪の変化や管理 	-	爪の形状の理解 日本特有の言い方 (巻き爪・ばち状の指) /疾患・病態との組み合わせ・結びつきがわからない (例) 爪の白濁→爪白癬 など/選択肢 3.「さび」が「スプーン」とは思わなかった (→教科書やナビにも「スプーン」と記載)/勉強したが、忘れた/2 つの選択肢で迷った/集中できなかった
<ul style="list-style-type: none"> 45% 	99					

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤答理由(太字表記:複数回答だったもの)	
					誤選択No.	誤答理由
こころとからだのしくみ		41%	100	口臭及び口腔衛生	・ 口臭の利用者を見ていると、唾液量が多い人は口臭があるため、選択肢 2.「唾液量が多い人は口臭がある」と回答したら、×だった	誤答理由
					・ 選択肢 3.「ウイルス感染が口臭を生じさせる」と思った/インフルエンザの時も口臭があるという認識	
					・ オーラルケア自体は勉強してきたが、口臭に関しては勉強不足/口臭の原因として、最も適切な原因がわからない/迷って回答した/自分ではわかっていたつもり/2 つの選択肢で迷った/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでなかった	
					・ 選択肢 1.「転落する」と骨折すると思った	
					・ 転倒(予防)に対する技術、実践としてわかっているが、知識としての理解不足/現代の治療やリハビリの方針の理解不足/高齢者だから早期にリハビリテーションを開始するのはよくないと思っ	
					・ 来、これが正答選択肢 3.)	
					・ 摂食嚥下の 5 分、明瞭に理解できていなかった/摂食嚥下のプロセスを間違えて覚えていた/先行期の内容を理解していなかった/窒息の多い接触嚥下の時期は理解できていた/唾液がでる行動をイメージできなかった/勉強していない/2 つの選択肢で迷った/1.か 4.か答えに迷った	
					・ 設問文「歩き回った後」わかりにくい/全選択肢の漢字が難しく、わからなかった/設問が長いので、理解するのに時間がかかった/専門用語が難しかった/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/(母国語での試験なら) 選択肢の言葉が理解できた	
					・ 失禁はわかるが、正常な尿の特徴について理解不足/選択肢 4.と 5.で迷った/マークシート記入間違え	
					・ 弛緩性便秘の意味や特徴がわからなかった/機能性便秘についての理解不足/弛緩性便秘の特徴である蠕動運動の低下や高齢者に多い便秘との理解はできていた/2 つの選択肢で迷った	
・ 睡眠自体は勉強しているが、睡眠と薬の関係と特徴については理解不足だった/学習した記憶はあるが、忘れていて間違えた/選択肢 2.か 4.か答えに迷った/服用したことがあるのでわかった						
・ 「ターミナル」に対する用語の知識不足/唯一、「ターミナルケア」はわかる/リビングウィルの理解不足/「グリーフケア比リビングウィル」を混同している						
・ 終末期のケアに関する理解不足/死へのイメージがつかめなかった/授業内容の理解不足/死亡直前と死亡後がごちゃごちゃになった/直前と直後の判断ミス						
・ 解剖の理解不足/介護福祉士が行える行為の理解不足/言葉の意味は理解できているが、選択ミス/選択肢 1. 2.「咽頭」はわかっていたが、設問にある「喀痰吸引の範囲」が「咽頭のどのあたりまで」かは、細かい選択の為、わからなくなった/授業ではわかっていたが、文字になると読み取れなかった/やはり、演習を繰り返すと理解できる/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでなかった。						
・ 選択肢 1.「医行為を除外された」は、医行為であることには間違いないので感わされた	1					
・ 選択肢 3.「介護福祉士は研修を受けていれば、病院でもできる」と思った	3					
医療的ケア	医療的ケア	68%	109	・ 喀痰吸引が制度化された変遷		
医療的ケア	医療的ケア	67%	110	・ 法改正後の介護福祉士の職務		

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤答理由 (太字表記：複数回答だったもの)	
				誤選択No.	誤答理由	
医療的ケア	医療的ケア	71%	111	<ul style="list-style-type: none"> ・ 喀痰吸引の実施 ・ 喀痰吸引に必要な物品の管理 ・ 喀痰吸引をする際の消毒方法 	5	<p>選択肢 5.「介護福祉士がインスリン注射できる」を選択した者が多かった/その理由として、「(利用者)が自分でインスリン注射をしている時に」介助ができるから」と理解したのではないか</p> <p>言葉の意味は理解できているが、選択ミス</p> <p>問題が難しかった/言葉の意味は理解できているが、選択ミス</p> <p>選択肢 5「70～80%になる前」ではなく、「70%以下」だと思った (←選択肢 5.が正答) /正確に理解していなかった/実践しているので手順はわかるが、文章になると、どの状況を説明しているのか、わからなかった/授業ではわかっていたが、文字になると読み取れなかった/言葉の意味は理解できているが、選択ミス/今現在授業進行中の内容/2つの選択肢で迷った/選択肢を絞ることはできず、正しい答えがわからなかった</p>
					4	<p>経管栄養の方に対する工夫、配慮といった点が勉強不足/経管栄養の栄養剤が冷たいままだった</p> <p>ら、どうなるのが理解できていない</p>
					3	<p>「脳の細い血管が詰まっている＝梗塞」の理解不足/脳の疾患の種類が理解できていない/(脳の疾患それぞれ)の違いを理解していなかった/言葉の意味は理解できているが、選択ミス</p>
					2	<p>賞味期限が2日前に切れていたから、食べてはいけないと思った</p>
					3	<p>選択肢 4.「相談」の必要はないと思った (←正答) から、選択肢 3.「缶のふたを開けて」おけばいいと思った</p>
					5	<p>保存容器にうつしておけば食品自体に問題ないと思った</p>
					1	<p>賞味期限が2日前に切れた在話の対処方法が不明/賞味期限(消費期限)についての知識不足/この回答は文化の違いが影響しているように思われる/お金がないと賞味期限切れでも、人によっては食べる/果物は、新鮮な生ものを食べるため、缶詰は食べない(お魚等の缶詰も、あるが食べない)/賞味期限が切れていたら基本的に食べない/文化の違いというよりは、そもそも缶詰は普段からあまり使用しない/日本のコンビニなどは賞味期限に厳しい/私だったら、1日ぐらいいなら食べちゃおうと思う/賞味期限については中国でも標記されており、知っていたが「消費期限」については、中国にはない。日本に来て初めて知った/2つの選択肢で迷った</p>
総合問題	総合問題	40%	116	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険の申請と各関連事業所 ・ 介護予防サービス・支援計画書と作成者 ・ 介護過程 ・ 記録物の種類の違い 	4	<p>設問文に「訪問介護」が出てくるので、選択肢も同じ「訪問介護事業所」という言葉をヒントに選んだ</p>
					1	<p>地域包括支援センター及び主任介護支援専門員の役割についての理解不足/要支援・要介護の区別がつけられていない/要支援者の制度理解不足/選択肢が混乱しやすい/問題が難しすぎる</p>
					4	<p>問題文をしっかりと読まないで、選択肢 4.「プロセスコード」が大事だと思った</p>
					1	<p>生活相談員が作成する記録がわからない/インシデント報告書・エコマップ・プロセスコード・フェイシートが、それぞれ、どんな記録になるのかイメージできない/各書類の意味や目的的理解不足</p>

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤選択No.	誤答理由
総合問題	総合問題	57%	118	・ 中核症状 ・ 失行	1	選択肢1「幻視」が原因で、歯を磨こうとしなかったという可能性を考えた意味は理解できたが、間違った「常同行動」を習ったと思うが、忘れた/間違えて覚えていた/2つの選択肢（2番と5番）で迷った
					-	
		21%	119	・ 社会福祉法人の役割	-	既にある制度と、独自の事業の区別ができなかった/選択肢にある各事業（公益事業 日常生活自立支援事業 相談支援事業 自立相談支援事業 地域生活支援事業）が何かかわからない/介護保険制度のことがわからない/(私の出身国の) 支援体制がここまで整った環境ではなく、想像することもできない/すべてわからない/ちんぷんかんぷん状態
					-	
		44%	120	・ 精神科の入院の形態 ・ 精神疾患の制度	-	全選択肢の言葉（任意入院、医療保護入院、応急入院、措置入院、緊急措置入院）の意味がわからなかった/精神疾患の入院体系はわからない/措置の知識が少ない
					-	自分ならどう会話をするのか想像して答えたが、間違っていた/単純に対応方法がわからない
		55%	121	・ 精神疾患の制度 ・ 精神疾患の患者への対応 ・ 自立支援に関する基本的な理解 ・ 統合失調症のある方の就労に向けての支援	-	「自信がない」と言っているから、対策はいらないと思った/自己決定の原則に沿うことができなかった/雇用管理に関すること/内容を誤解した/選択肢3と4で迷った
					-	
					-	
		48%	122	・ 精神疾患の患者への対応 ・ 自立支援に関する基本的な理解 ・ 統合失調症のある方の就労に向けての支援	1	事例文「夜中に目が覚める」という言葉から、選択肢1「睡眠不足」だと思った
					-	選択肢の言葉（睡眠不足・低栄養・平衡感覚の低下・筋力低下・関節の炎症）に関する知識不足/2つの選択肢で迷った
		52%	123	・ 関節リウマチ	-	事例文「夜中に目が覚める」という言葉から、選択肢1「睡眠不足」だと思った
					-	事例文「夜中に目が覚める」という言葉から、選択肢1「睡眠不足」だと思った
		45%	124	・ 障害者総合支援法の自立支援給付費 ・ 補装具費	-	事例文「夜中に目が覚める」という言葉から、選択肢1「睡眠不足」だと思った
					-	事例文「夜中に目が覚める」という言葉から、選択肢1「睡眠不足」だと思った
41%	125	・ 関節リウマチのある人の生活全般	-	事例文「夜中に目が覚める」という言葉から、選択肢1「睡眠不足」だと思った		
			-	事例文「夜中に目が覚める」という言葉から、選択肢1「睡眠不足」だと思った		

② 日本語に関する誤回答の理由

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記: 複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記: 複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1~5	
人間と社会	尊厳	69%	1	<ul style="list-style-type: none"> 人工透析 延命治療 意思決定 (気持ちに) 迷い 		<p>事例を読み解けない/想定の意味がつかめなかった/設問が長く、理解が難しい/文末が理解しがたい/使用語彙が難しい/全体的に意味がわからない/意思確認の主語がわからなかった/「医療職が作成する」の意味がわからない(翻訳された) 英語で意味を理解できなかった</p>
	48%	3	<ul style="list-style-type: none"> 自己覚知 	<p>設問文、「最も(適切なもの)」の問題は正解が選べない/選択肢 2.「洞察」→「知る」であればわかる「主観的」の意味を間違えていた/「主観的」:「客観的」理解不足/使用している言葉が難しい(翻訳された文章で) 意味がわかった/「自己」の漢字はわかるが、「覚知」がわからなかった</p>		
					83%	4
	50%	5	<ul style="list-style-type: none"> 近隣住民同士 生活困窮 	<p>選択肢 5.「生活困窮」「貧困」との違いがわからない/使用語彙が難しい/漢字の意味はわかかったが、どの答えを指しているのか理解ができなかつた/専門用語がわからなかつた/文章の意味を誤解していた/似たような語で混乱した/それぞれの単語の意味が混同してしまう</p>		
					66%	6
	57%	7	<ul style="list-style-type: none"> 身寄りがない 	<p>日本語の文章が理解できなかつた/日本語の理解不足/言葉の意味がわからない/設問が長く、理解が難しい/母国語でも制度の意味は難しい</p>		

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5	
人間と社会	社会の理解	35%	8	・ 財政	1. 2. 「財源」 2. 「社会保障給付費」「占める」 1～5. 「割合」などの言葉が難しい	「財源」「財政」という言葉を説明すると、知っているが、理解できていない/熟語の意味の理解不足/設問が長く、理解が難しい/言葉の意味がわからない/書いている内容がわからない/文章全体の理解ができず、答えを選択することができなかった/趣旨が読めていない/誤回答だった/問題自体の意味がわからなかった/漢字の多い言葉は、意味がわからない/日本語の理解不足/母国語でもそうだが、法律や税金、保険料について覚えるのが難しい
					64%	9
		34%	10	・ 介護予防・日常生活支援総合事業	2. 「予防給付」 3. 「介護給付」 4. 「権利擁護事業」	熟語の意味の理解不足/使用語が難しい/言葉が難しい/母国語なら日常生活の言葉に近い訪問事業の選択肢を選べた
		27%	11		1. 「厚生労働大臣」「基本的な指針」 2. 3. 「策定」「努力義務」 4. 「異なっている」 5. 「文化芸術活動・スポーツの振興」	「厚生労働省」が「市町村」とかいう言葉は、頭に入らない/「厚生労働大臣」「策定」「努力義務」は説明ができない/「策定」という言葉の意味がわからず、問題が何を指しているのか理解できなかった/「使用語彙が難しい/熟語の意味の理解不足/日本語の理解不足/英語の表記なら、わかった
		36%	12	・ 障害者総合支援法 ・ 居宅介護	4. 「審査会」 5. 「(市町村の)担当窓口」	設問文「最初の手續きとして」の「最初」という表記に焦点を当てることができなかった/事例の状況(交通事故によって下肢に障害)がわからない/問題自体の意味がわからなかった/熟語の意味の理解不足/意味がわからない/言葉が難しい/選択肢 4. 「申し出る」と選択肢 5. 「(支給)申請」の違いがわからない/日本語の理解不足/「障害福祉サービス=disability welfare services」の表記なら、わかった
		28%	13	・ 創設 ・ 共生 ・ 共生型サービス	3. 「同行援護」	熟語の意味の理解不足/言葉が難しい/カタカナ苦手(サービス・グループホーム・デイサービス・リハビリテーション) / 「日本語の理解不足/バトナムの制度に似たようなものがあった/「共生」の意味がわからない
		55%	14	・ 障害支援区分 ・ 就労支援施設 ・ こだわり ・ 処分 ・ パニック ・ 購入している雑誌 ・ 介護福祉職 ・ 障害者虐待防止法		選択肢 2. 「とっておきまよう」を「取る」と解釈した/事例の状況がわからない/問題文を読んで、その意味を理解することができなかった/混乱して、日本語の問題だと思った/問題文が正しく理解できていない/日本語の意図がつかめない/日本語の理解不足/使用語彙がわからない/意味がわからない/話し言葉は理解しづらかった/例えば、選択肢 5. 「雑誌がきますよ」の「きますよ」という言葉に引っかかった/言葉かけの言い回しが理解できなかった/日本語での答え方わからない/日本語の話ことばが母国語だとわかりやすかった/バトナム語で意味がわからなかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5	
人間と社会	社会の理解	37%	15	・ (注釈) 最高裁判所事務総局家庭局	1. 「申立て」 4. 「候補者」 5. 「報酬」	言葉の意味を間違えて理解していた/意味がわからない/言葉が難しい/言葉と漢字が難しい/日本語の理解不足/母国語だと選択肢の言葉がわかった
介護	介護の基本	69%	17	・ 散乱 ・ 事情 ・ 日課 ・ (豆から) 挽いて		読解力のなさ/読み間違えた/質問が長いので意味がわからなかった/事例が長く、読んでいるうちにわからなくなった/長い文章の中に理解できない言葉があると、全体がわからなくなる/文章の意味は正しいがどうか、迷った/日本語の理解不足/事例がよく理解できた/母国語では理解することができた
		41%	19	・ 関連	1. 「電気スタンド」 4. 「活力 (が低下する)」 5. 「床の性状」「バランスを崩す」	意味が理解しにくい/意味がわからない/答えが理解できなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/問題の内容を誤って理解した/母国語なら、環境因子の選択肢がわかりやすかった
		45%	21	・ 平成 30 年版高齢社会白書 ・ 内閣府 ・ 家庭内事故の発生割合		意味がわからない/問題はイメージできた/日本語の理解不足/ベトナム語の訳し方が違う

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5	
介護	介護の基本	41%	23	・ サービス提供者 1.「作成する」 4.「(判断能力が) 十分でない人」 4.「日常的な金銭管理」 5.「召集して、サビ担会議を開催する」	1.「作成する」 4.「(判断能力が) 十分でない人」 4.「日常的な金銭管理」 5.「召集して、サビ担会議を開催する」	記載の意味/日本語がわからない/意味がわからない/熟語の意味の理解不足/日本語の理解不足/サービス提供者はわからないが、「service provider」なら答えが出せた
		51%	24	・ (介護福祉職の) 倫理 2.「(チームから) 除かれる」 5.「(ケアの) 方向性」	2.「(チームから) 除かれる」 5.「(ケアの) 方向性」	設問文「最も適切」を「最優先」ととらえてしまった/5つの選択肢の文章が理解できなかった/よく理解できなかった/はっきりわからない/日本語がわからない/読解力不足/難しい言葉がある/よく読まない/ので、間違えた
		70%	25	・ (介護福祉職の) 倫理 1.「伴わなくても」 4.「暴力をふるう」 5.「打合わせ」	1.「伴わなくても」 4.「暴力をふるう」 5.「打合わせ」	質問の意味がわからない/問いの意味を理解できていない/熟語の意味の理解不足/内容がわからなかった/日本語がわからない(読解力不足) /誤解した/母国語では理解することができた/ベトナム語であればよかった/母国語で誤答
		60%	26	・ 保菌者 1.「(保菌者の)有無」 2.「接触感染症予防策」 5.「用いられる(消毒薬は)無効」	1.「(保菌者の)有無」 2.「接触感染症予防策」 5.「用いられる(消毒薬は)無効」	言葉がわからなかった/わからない/問題の意味が難しかった/選択肢の文章が全てわからなかった/(母国語での試験を見た) MRSA 聞いたことがあった/(母国語での試験でも) 質問がわからない/母国語の「感染」という意味と異なっているのでは？
		27%	27	・ 直面化 1.「矛盾点」指摘する」 2.「促す」 4.「簡潔(に返す)」	1.「矛盾点」指摘する」 2.「促す」 4.「簡潔(に返す)」	選択肢の文章の意味がほとんどわからなかった/言葉がわからなかった/使用語が難しい/日本語がわからない/読解力不足/しっかりと読まなかった/意味がわからない/問題の内容を誤って理解した
		61%	28	・ 意欲(が低下した人) 2.「励ます」 4.「背景」 5.「(自己決定してもらうのは)避ける」	2.「励ます」 4.「背景」 5.「(自己決定してもらうのは)避ける」	選択肢 1.「考え方を変える」= 気分転換と思った/選択肢 1.「考え方を変える」、選択肢 3.「自然に回復を待つ」それぞれイメージが持っていない/日本語の語彙、文法の理解不足/漢字が理解できなかった/理解できなかった/考え方が間違った/日本語の理解が不十分で、選択肢を間違った/日本語をよく読まなかったため/ほとんどの選択肢がわからなかった/答えの意味を誤解した/選択肢の文が短くて伝わらない/(母国語での試験なら) 選択肢の言葉がわからなかった
		41%	29	・ 構音 1.「控える」 3.「促す」	1.「控える」 3.「促す」	漢字がわからなかった/日本語の表現がわからない/わかりにくい/日本語の理解が不十分で、選択肢を間違った/集中して文章をよく読まなかったため/日本語の語彙、文法の理解不足/(母国語なら)「控える」がわかる
		67%	30	・ 視覚 2.「最小限にとどめる」 4.「準言語の活用」[控える] 5.「あちら」「こちら」	2.「最小限にとどめる」 4.「準言語の活用」[控える] 5.「あちら」「こちら」	設問文、「視覚」を「聴覚」と思ってしまった/わかりにくい/集中して文章をよく読まなかった/問いの内容を読み込めていない/日本語の語彙、文法の理解不足

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5	
介護	コミュニケーション	48%	31	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抽象的 (な言葉) ・ 社会的な善悪に照らして ・ 善悪 ・ 興奮 ・ 口調 ・ 叱った 	1.「許されません」	設問文「最も (適切なもの) 」の問題は正解が選べない/選択肢 4.「ここで話をしましょ」を命令調に解釈した (ここでゆっくり…等の言葉が入れば理解できた) /事例が長すぎて、事例を理解しようとする意欲が低下する/事例文がわからなから選べない/事例を読んで、情景をイメージするのが難しかった/長文の読解力の不足/読むだけで精いっぱいな様子/言葉の理解ができなかった/会話文の理解が難しかった/問題文が読み取れなかった/日本語の語彙、文法の理解不足
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 1.「叱る」 ・ 4.「介入せずに黙認」 	設問文「家族への対応」→誰に対しての問いか、わからない/選択肢 1.「支持する」の意味を逆に、否定ととらえた/日本語の語彙、文法の理解不足/言葉がわからなかった/使用語が難しい/問題文が長い/日本語がわからない/読解力不足/問題文を誤って解釈していた/設問はイメージができた(母国語での試験をみて)「叱る」がわからない	
		53%	34	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客観的事実を表す介護記録 	3.「無断外出」 4.「認知症が悪化」「～ようだ」	設問のイメージはできた/専門用語が少ないので、理解しやすかった/紛らわしい表現だった/日本語のニュアンスが理解できなかった/日本語がわからない/読解力不足/問題文が長い/留学生の日本語能力にはバラつきがある/日本語の漢字の意味がわかっていない/ふりがながあっても、言葉そのものの意味が理解できないことがあるようです
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 客観的事実とその文章が結びつかない/質問の意味がわからなかった/意味を理解することができなかった/気がなかつた/考え方を間違った/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/「客観的事実」と「主観的事実」でどちらがどういう意味なのかわからなくなってしまう 	「客観的事実」とその文章が結びつかない/質問の意味がわからなかった/意味を理解することができなかった/気がなかつた/考え方を間違った/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/「客観的事実」と「主観的事実」でどちらがどういう意味なのかわからなくなってしまう	
		37%	36	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一戸建て ・ 地震対策 ・ 助言 	1.「キャスター」 2.「書棚の上部」 「収納」 4.「玄関の1方向」 5.「リュックサック」	「リュックサック」や「キャスター」などカタカナは中国系の学生は不得意/カタカナ語は難しい/日本語の語彙、文法の理解不足
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 給付 ・ 住宅改修 ・ 助言 	3.「滑りにくい (床材)」 4.「取り外し」 5.「 (洗浄機能を) 付加できる」	日本語の理解不足/答えの意味が理解できない/英語での表記なら、「介護保険の給付対象の住宅改修」という意味がわかった
		53%	38	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルデザイン 	3.「情報伝達の手段は一つにする」 5.「 (広さが) 確保 (されている)」	日本語の語彙、文法の理解不足
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 高次脳機能障害 ・ 着衣失行 	2.「 (衣類に) 印をつける」 3.「口頭 (で指示する)」	更衣介助に関する選択肢の文章が全体的にわからなかった/選択肢の日本語表現が難しい/わからない

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5	
介護	生活支援技術	53%	39	・ 更衣	1.「マグネット式」 2.「ボタンエイド」 4.「ソックスエイド」 5.「袖ぐり」	マグネット、ソックスエイドなどのカタカナ語がわからず、設問内容を想像することが難しくかった。「更衣」の日本語理解不足/(選択肢 1.～5.それぞれの)一文が長い/難しい/意味がわからない/日本語の理解不足/(母国語なら)マグネットのボタンの意味がわかった
		57%	40	・ 身じたく	1.「(関節)可動域」 3.「破損した義歯を修復する」	日本語の語彙、文法の理解不足/専門職の仕事内容がわからなかった/問題の意味、質問の意味がわからない/問題文をしっかりと読んでなかった/問題文を正しく読み取ることができなかった
		69%	41			問題の意味が理解できていない/問題文をしっかりと読んでなかった/読み込み不足
		55%	42	・ 静止 ・ 重心線 ・ 重心線が点 X から点 Y に移動	1.～5.「ふらつき」	設問文.「考えられる」という言葉の意味が正しく伝わらない/設問の意味がわからず(設問に図がある)判断できなかった/文章とイラストでは、問われている内容を理解できなかった/図の理解ができず、何を問われているのかわからなかった/絵の説明がわかりにくかった/問題と絵が結びつかなかった/文章のイメージが伝わらない/問題文からイメージできなかった/問題の意味がわからない/点 X から点 Y 移動かすと思った/足の移動だと思ってしまう/前方・後方の解釈を間違えた/選択肢が理解しにくい/日本語の語彙の理解不足/読み込み不足/(母国語なら)問題と絵が結びついた
		58%	43	・ (階段を)昇降する	1.3.5.「声をかける」 2.「左後方」 4.「右前方」	日本語の語彙の理解不足/日本語の理解不足/日本語でイメージすることが難しくかった/問題文の意味がわからなかった/問題を読み間違えた/右と左を勘違いした/よく読めばわかった
		33%	44	・ バランスガイド を用いて	1.「主食」 2.「副菜」 3.「主菜」	設問文.「勧める」を見落とし、「変更しなければならぬもの」と解釈した/「主食」と「主菜」の意味を間違えた/「副菜」と「主菜」を取り違えていた/「主食」と「主菜」の区別ができない/「主菜」は語句検索でも出にくい/「主菜」「副菜」がわからぬ/問題がイメージができた/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙の理解不足/言葉の意味に迷いました/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでなかった
		63%	45			設問文.「最も適切」に悩んだ/日本語の語彙の理解不足
		55%	46	・ 助言	1.「骨粗鬆症」[ビタミンD] 2.3.「控える」 4.「ドライマウス」	「控える」何回も説明するが記憶できない/「控える」の意味は、むしろ摂取したほうが良いという意味だと思った/カタカナ語がわからぬ/想像することも困難だった (「ドライマウス」) /問題のはやとちり/日本語の語彙の理解不足
		52%	47	・ 左半側空間無	1.2.「トレイ (tray)」 3.「クロックホジソン」 4.「適宜」	「トレイ」は「おぼん」であれば理解できた/言葉が難しい/日本語の語彙の理解不足/質問の読み方を勘違いしていた/質問がわからない/カタカナ語がわからぬ/想像することも困難だった/ (母国語での試験なら) 正解がわかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5	
介護	生活支援技術	40%	48		1.「目尻」「目頭」 3.「臍部」「恥骨部」 4.「末梢」「中枢」	全選択肢「拭く」という漢字の読みができなかった/選択肢 5.「最後にまとめて拭く」という表現がわかりにくい/身体部分に関する語彙力不足/日本語の語彙の理解不足/選択肢がほとんどわからなかった/読解力のなさ/勘違い/読み込み不足/マークシート記入間違え/集中力がさくれた/よく読まなかった/(母国語で) 目尻、目頭がわかった。それがわかれば解けた/英語：ベリアリーの意味が違(翻訳された文について)
					1.「血液透析」 2.「胃ろうを造設」「(入浴を)控える」 3.「心臓機能障害」「半身浴」 4.「酸素療法」 5.「回腸ストーマ」	日本語の語彙の理解不足/問題が難しかった/問題の意味がわからない/選択肢がほとんどわからなかった/選択肢の内容が難しかった/問題はイメージができた
		58%	50	・ 設置場所		設問の図の「左右」の概念を、逆に、読み取って間違えた/図を見て、左右がイメージできなかった/図の意味を誤解した/モデルのイラスト欲しい/サイドレールとポータブルのどちらを動かすのかの理解に欠けた/日本語の理解不足
					4.「(カテーテルを) 抜去」	日本語がわからない/読解力不足/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでいなかった
		58%	52	・ 「解熱を目的」「座薬」「挿入」	1.～4.「挿入」 2.「腹式呼吸」 3.「とがっていない」 4.「排出されない」	「排出」を便の排出のことだと思った/意味がわからない/使っている言葉がわからなかった/問題文の日本語表現がわからなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/日本語がわからない/読解力不足
					1.「ウエルッシュ菌」 2.「カンピロバクター」 3.「サルモネラ菌」 4.「腸炎ビブリオ」 5.「黄色ブドウ球菌」	カタカナが混じっているので、苦手/問題が難しかった/覚えていなかった/わからない言葉があった/母国語でもわからない/英語でもわからなかった
		58%	54		2.「(アルコールを) 噴霧(する)」 4.「次亜塩素酸ナトリウム」	「次亜塩素酸ナトリウム」を使用すると、(衣類の) 色が落ちると思っていた/日本語の語彙、文法の理解不足/意味がわからない
				・ 訪問販売の業者 ・ 契約書 ・ サービス提供責任者 ・ 迅速	1.「行政書士」 3.「家庭裁判所」 4.「保健所」 5.「相談支援事業所」	言葉の意味がわからない/言葉が難しい/親和性がないので覚えるのが難しい/文章を理解しきれなかった/事例がわからなかった/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/文章長いだけで読まない/答えを迷った/(母国語なら) 事例 選択肢がわかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)	
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5		
介護	生活支援技術	50%	56	・ (眠れないと) 訴える ・ 助言	1.「日光を浴びる」	意味がわからない/問いの意味がわからなかった/読解力のなさ/読み間違えた/日本語の理解不足	
		41%	57		2.「(寝衣は、体に) 密着した(形)」 5.「(会話が) 響かない (ようにする)」	「密着」は「体に合っている」ことだと思ったり/使っている言葉が難しい/言葉の意味が理解できなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/文章をしっかりと読んでいなかった/日本語の解釈間違い/読解力のなさ/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでいなかった/母国語は逆にわかりにくい/説明が複雑になっている	
		50%	58		3.「ふらつき」	「体調に合わせて服薬時間を変更」の意味が理解できない/言葉がわからなかった/文章になるとわからない/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでいなかった	
		56%	59	・ 死前喘鳴	1.「自然な経過」	質問の意味が理解できなかった/事例の意味がわからなかった/会話の内容が誰の発言なのか理解できていなかった/事例をもっとよく読んでいればわかっていた/よく読めばわかっていた/日本語の意味が不足/日本語の理解不足	
		59%	60	・ 死亡後	1.「ペースメーカー」	設問文、「死亡後」は、(死亡直後のことではなく) お葬式のことだと思ったり/質問の意味が理解できなかった/問題の意味がわからなかった/問題の読み違い/日本語の語彙、文法の理解不足/集中できなかった	
		68%	61		2.「療養上 (の世話)」 3.「経済的負担 (を軽減する)」	言葉の意味が理解できなかった/日本語の意味がわからなかった/言葉が全般的に難しかった/言葉がわからない箇所がある/日本語がわからない/読解力不足/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでいなかった	
	介護過程		56%	62		1.「抽出」「ニースを踏まえて」 3.「使役文」 5.「計画の見直し」	選択肢 1. 「抽出されたニースを踏まえて」目標を設定する「理解できなかった/選択肢 3. 「「～させる」と使役文で」がわからなかった/「させる」を「される」と読んだ/「～させる」への理解がない/日本語の語彙、文法の理解不足/日本語がわからない/読解力不足/文章をしっかりと読まなかった
			53%	63		1.「(介護福祉職の) 価値観 (に沿って)」 2.「客観的 (に記録する)」 4.「経過報告」	設問文、「最も (適切なもの)」の問題は正解が選べない/選択肢 3.「直前 (に家族に伝える)」がどこまでをさすのか？むずかしい/選択肢 4.「他職種」の「他」があると混乱する/選択肢 5「利用者の満足度よりも目標の達成を優先する」意味がわからなかった/使っている言葉がわからなかった/文章の内容があまり理解できない/文章の意味が理解できなかった/よく問題を読んでいなかった/語彙は難しかったが、イメージはできる/日本語の語彙、文法の理解不足

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)	
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5		
介護	介護過程	47%	68	・ 農業	1.「関わって」	設問文「苦手」を「上手」と読んでしまった/長文読解/長い文章は時間がかかるので、間違える/長文のため、理解が難しかった/事例が長い/事例がまざらなかつたので/選択肢を選ばなかつた/事例の把握、野菜・・・喜ぶ＝「農業にかかわりたい」につながらない/文中で難しい言葉があると、最後まで読まずに、あきらめた/わからない語彙が多い/質問がわからなかつた/問題の意図がわからなかつた/ 日本語の理解不足/読解力不足 /思いがわからない (Eさんの思いを読み取れない) /時間が迫っていて、長文だったので、設問文を読まないで回答した/時間足りなかつた/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでなかつた	
				・ 夏野菜	2.「(社会的) 参照」		「微笑」等は、1字のみで想像して判断している/ 使用語彙が難しい /長くて、わかりにくかつた/問題文がわからなかつた/文章が長い/設問での事例がまざらなかつたので、選択肢を選ばなかつた/文章の中に難しい言葉があると、前の文章がわからなくなると/カタカナが苦手/英語だと設問の意味がわからなかつた
				・ 収穫	3.「クレーイング」		
				・ 探れたて	4.「自己中心性」		
				・ うつむいて	5.「二項関係」		
					1.「雇用 (の安定)」		
発達と老化の理解	こころとからだのしくみ	56%	71		1.「舌骨」上昇」	選択肢 4,「(免許証の更新の) 特例がある」が理解できない/後期高齢者など、頻度の多い語彙は反復することで理解度が高くなる/意味がわからない/漢字の単語が長いと意味がわからない/日本語がわからない/読解力不足/英語だと設問の意味がわからなかつた 選択肢の専門用語の漢字がわからなかつた /身体に関する用語の理解不足/嚙下機能の言葉がわからなかつた/専門用語が難しい/表現が難しいので、理解ができない/使用語彙が難しい/ことばの意味が、似たような漢字で、わかりづらい/ことばの説明と理解が必要/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/意味がわからない/わからなかつた/(母国語での試験なら) 言葉のイメージができた/バトナム語だと設問を理解することができた 非漢字圏の留学生は、漢字の意味で内容を理解する習慣が身につけていない/選択肢 4.「騒がしい」は「人がたくさんいる場所」と考えてしまった/理解できなかった/意味がわからない/言葉が難しい/問題と選択肢の意味がわからなかつた/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/(母国語での試験なら) 不明であった言葉がわからなかつた	
					2.「逆唱課題」		
					4.「騒がしい場所」「作業効率」		
					5.「エピソード記憶」		
					1.「速やかに」「息切れ」		
					3.「チアノーゼが生じる」		
介護		42%	73		4.「(呼吸苦は、～) 軽減する」	理解できなかった/意味がわからない/チアノーゼ等カタカナの言葉がわからない (特に医学用語) / 日本語の語彙、文法、読解の理解不足 /(母国語での試験なら) チアノーゼの言葉がわからなかつた	
					5.「(下肢に) 限局 (した浮腫)」		

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)		
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5			
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	63%	74	・ 脳卒中 ・ 微熱 ・ 水疱 ・ 最も適切な	1.「圧迫」「血流」 2.「まれである」	選択肢 2.「(仙骨部に) こうした」が指示している言葉がどこかわからない/選択肢 3.「無関係」という言葉を初めて見た/選択肢 4.「できるだけ避ける」と選択肢 5.「できるだけ控える」→この 2 つの違いがわからない/文章が長い/長い文章になると、全体がわからなくなる/事例がまずわからなかったので/選択肢を選べなかった/問題文読み取り/使用語彙が難しい/問題の理解が難しい/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/集中できなかった		
				57%	75	・ 栄養状態 ・ 維持	1.「 歯科健康診査 」 2.「(薬剤を) 併用する」 5.「たんぱく質を) 制限する」	設問の語彙がわからず、間違える/日本語がわからない/言葉の意味がわからない/質問がわからなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/全部正解のような文章であった/(母国語での試験なら) 栄養状態の言葉がわかった/英語だと設問の意味がわかった
						44%	76	・ 転倒 ・ 自宅療養
		48%	77	・ 推計値				日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足
				41%	78		5.「 昼夜逆転が生じる 」	使用語彙が難しい/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足/BPSD は英語圏なら共通理解している
		認知症の理解	47%			79	・ せん妄	1.「 薬剤 」 3.「(意識レベルは) 清明 」 5.「 幻覚 」
				28%	80		・ 初期症状	1.～5.「～が認められる」
	58%						81	・ 発症リスク ・ 低減
			53%	82	・ 抗認知症薬			選択肢 5.「 複数の抗認知症薬 」の「 複数 」が、2 つでも複数になると思わなかった/ 日本語の語彙、文法の理解不足
	64%				83		1.「 周回IGPS 追跡機 」 2.「(甘い食べ物への) こだわり 」 3.「 周困 」(生活習慣を) 確立する」 4.「 脱抑制 」	選択肢 3.「(生活習慣を) 確立する」の意味がわからない/日本語の語彙、文法の理解不足/日本語がわからない/読解力不足

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5	
こころとからだのしくみ	認知症の理解	59%	84		1.「 処分 」	設問文。「最初に行う (助言の内容) 」という設問が捉えられなかった/事例自体がわからなかった/文書の理解不足/問題が長いので、時間がかかった/使用語彙が難しい/ 日本語の語彙、文法、読解の理解不足
					2.「 手助け 」	
		54%	85		4.「 薬物治療 」 主治医	選択肢 5.「 保佐人 」を「 保証人 」と思った/ 日本語の語彙、文法、読解の理解不足 /しっかりと読まなかった/文章の意味わからなかった/ 選択肢が理解できなかった /言葉の意味が理解できなかった/ 言葉がわからない /問題解決力わからない/(母国語での試験でも)文章の意味わからなかった
					5.「 保佐人 」	
		44%	86	・ 介護予防教室 ・ 怒りっばい	3.「 老人クラブ 」	設問文。「怒りっばい」→「いつもずっと怒っている」と勘違い/1.～5.「(～すと)いいでしょう」という声かけが良くない声かけのように感じた/ 事例問題は苦手 /読むこととらわれ、想像しながら読解することが困難/ 読解力不足/意味が理解できなかった /日本語がわからない/ 日本語の語彙、文法、読解の理解不足 /文章を読み解くことはできたが、適切なものを選択することができなかった/集中できなかった
					5.「 経済的不利益 」	
	64%	87	・ 能力障害	4.「 職場復帰困難 」	選択肢の言葉が理解できなかった/ 使用語彙 (漢字) が難しい/ 日本語がわからない / 読解力不足 / 日本語の語彙、文法の理解不足 /集中できなかった	
				5.「 経済的不利益 」		
	42%	88		2.4.「 合理的配慮 」	選択肢の言葉が理解できなかった/文章の意味が理解できない/言い回しがわからぬ/ 言葉がわからない / 共生社会 」は英語でも意味がわからない/ 言葉が難しい / 日本語がわからない / 読解力不足 / 日本語の語彙、文法の理解不足 (母国語での)文章を読んで、正確ではないが、正解できた	
				5.「 協議会 」		
	26%	89	・ 痙直型 ・ 不随意運動型 ・ アテナーゼ型		問題文がりにくい/問題文から答えを選択することが難しい/ 日本語の語彙、文法の理解不足 (母国語での)文章を読んで、正確ではないが、正解できた	
43%	90	・ 内因性精神障害 ・ 分類される疾患	3.「 パニック障害 」	「 内 」や「 外 」の言葉の意味が難しい/ 日本語がわからない / 読解力不足 / 日本語の語彙、文法の理解 /フィリピンでは高校で学習した分野だった		
			5.「 統合失調症 」			
41%	91	・ 地域移行 ・ 社会資源	1.「 ケアハウス 」	設問文「 社会資源 」へのイメージがつかめなかった/ 全選択肢それぞれの言葉の意味が、いまいちわからなかった /選択肢 1.「 ケアハウス 」選択肢 2.「 グループホーム 」がわからなかった/選択肢 5「 同行援護 」の意味を理解していない/問題の意味がわからない/ 日本語がわからない / 読解力不足 / 日本語の語彙、文法の理解不足 /問題をしっかりと読まなかった/(母国語での)文章を読んで、正確ではないが、正解できた		
			2.「 共同生活援助 (グループホーム) 」			
51%	92	・ 自閉症スペクトラム障害 ・ 書特性	3.「 自立支援医療 」	質問の内容を誤った捉え方をした/ 専門用語が難しい / 日本語の語彙、文法の理解不足 (母国語なら)障害の特性を読み解けた		
			4.「 精神科病院 」			
			5.「 同行援護 」			

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)					
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5						
こころとからだのしくみ	障害の理解	27%	93	筋委縮性側索硬化症	1.「免疫疾患」	選択肢の言葉が理解できなかった/専門用語が難しいし、わからない/使用語彙が難しい/答えの内容が理解できなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/慌てて、しっかり読んでなかった/(母国語での) 文章を読んで、正確ではないが、正解できた					
					48%	94	糖尿病性網膜症 (失明は) 避けられない	4.「否認」ができていない	設問文「周囲に怒りをぶつけたり、壁に頭を打ちつけたりがイメージできなかった/設問が長くてわかりにくかった/文章が長い/文章の中に難しい言葉があると、前の文章がわからなくなることから、前の文章の内容も理解できず、答えの内容も理解できなかった/言葉の意味が理解できなかった/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/(母国語なら) 選択肢が理解できた		
								42%	95	歩行時の方向転換 (が不安定)	設問文「日常生活には介助を必要としない」という文章を読み解けなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/(母国語の試験なら) 症状を理解できて、ステージを選択することができた
											60%
		67%	97	相当する	日本語表現を理解できなかった/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足						
					31%	98	機能局在の部位	使用語彙が難しい/日本語の語彙、文法の理解不足/(母国語での試験なら) 選択肢の言葉の意味が理解できた			
								45%	99	爪、指 推測される	問題と選択肢の意味がわからなかった/日本語がわからない/難しい/読解力不足/日本語の語彙/文法の理解不足/集中できなかった
		41%	100	口臭	選択肢 3.5.「～なることがある」という表現はわかりにくい/選択肢 5.「避ける」の漢字の意味を勘違いしていた/ 日本語の表現が難しく、文章を理解できなかった/日本語がわからない/読解力不足/内容を誤解した/日本語の語彙、文法の理解不足						

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5	
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	30%	101		1.「 転落 」 2.「 無症状 」 4.「 保存的治療 」 5.「 予後 」	設問文「最も適切な」の意味がわからない/バトナム語だと、「転倒」も「転落」も同じ言葉/設問文の意図が理解できていない/日本語の語彙、文法の理解不足
					2.「(嚥下性) 無呼吸」 4.「(食塊を) 形成する」 5.「 随意的 」	設問文は短いので、意味が理解できた/内容が理解できていない/選択肢の言葉が理解できなかった/日本語の語彙、文法の理解不足
		52%	103	・ 歩き回った後	1.「 反射性尿失禁 」 2.「 心性頻尿 」 3.「 溢流性尿失禁 」 4.「 機能性尿失禁 」 5.「 腹圧性尿失禁 」	設問文「歩き回った後」わかりにくい/全選択肢の漢字が難しく、わからなかった/設問が長いので、理解するのに時間がかかった/専門用語が難しかった/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/ (母国語での試験なら) 選択肢の言葉が理解できた
				・ 正常な尿	2.「 ブドウ糖 が排出」 3.「 排尿直後 」アンモニア臭」 4.「 排尿直後 」アルカリ性」 5.「 排尿直後 」淡黄色」透明」	選択肢 3.～5.「 排尿直後 」の意味がわからない。特に、「直後」がいつなのかわからない/選択肢 5.「淡黄色」の「淡」を「炎」と理解した/選択肢の言葉が理解できなかった/言葉の意味が理解できなかった/日本語がわからない/読解力不足/排尿に関する知識は勉強したが、質問の主旨が理解できなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/「淡黄色」はわからなかったが、(母国語での試験なら) 「YELLOW」の表記で正答が出せた
		40%	105	・ 弛緩性便秘	1.「 食物繊維 」 5.「(がんによる) 通過障害」	設問文「最も適切な」を見落としている/選択肢の語彙が難しく理解できなかった/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足
				・ 抗ヒスタミン薬	1.「(就寝後) 覚醒する」 3.「痛がゆくなる」	設問文「 抗ヒスタミン薬 」の「抗」の意味がわからない/使用語彙が難しい/日本語の語彙、文法の理解不足
		40%	107	・ 終末期	1.「 ターミナルケア 」	設問文「 あらかじめ書面に示しておく 」がわかりにくい/設問に「終末期」と書いてあるのに選択肢に「ターミナルケア」とあったので設問の主旨が読み取れず誤った/英語圏以外の留学生は言葉がわからない/英語はわかるが、意味がわからない/英語の表記でも、その意味がわからない/日本語がわからない/読解力不足/問題の意味がわからなかった/カタカナが苦手/日本語の語彙、文法の理解不足/(母国語での試験なら) 問題の意味がわからなかった
				・ あらかじめ書面に示しておく	2.「 インフォームドコンセント 」 3.「 リビングウィル 」 4.「 デスクランジアレンス 」 5.「 グリーフケア 」	
54%	108	・ 死亡直前	1.「(筋肉の) 強直 」 2.「(角膜の) 混濁」 3.「(皮膚の) 死斑」 5.「(筋肉の) 硬直 」	選択肢 4.「 下顎 」がわからなくても、「 下顎呼吸 」になるとわからなかった/選択肢 1～5.「 強直 」「 混濁 」「 死斑 」「 硬直 」何が何だかわからなくなる/使用語彙が難しい/選択肢の語彙が難しく理解できなかった/選択肢の意味がわからなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/(母国語での試験なら) 選択肢の意味がわからなかった		

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)	
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5		
医療的ケア	医療的ケア	68%	109		5.「気管分枝部」	設問文が短いので設問の意味はわかる/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足/集中力が低下して、問題文をしっかりと読んでなかった	
		67%	110		1.「除外された」 4.「講師」 5.「インスリン注射」	設問文、「実施が可能」=「介助ができる」と認識した/問題が長いので、理解が難しい/日本語の理解不足/読解力不足/よく読まなかった	
		71%	111	・ 痰がからむ ・ 鼻腔内 ・ (痰は) 取り切れた (ようだ)	1.「(吸引)チューブを) とどめる」 5.「鼻腔内」	事例・選択肢の文がわからなかった/問題が長いので、理解が難しい/意味が理解できない/日本語がわからない/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/よく読まなかった/ (母国語での試験なら) 言葉がわかった	
		47%	112		1.「短時間」 2.「浸漬法」 5.「廃棄」	設問は理解できる/選択肢の言葉がわからなかった/選択肢の言葉が難しく、答えることができなかった/内容を誤解した/わからない言葉があった/しっかりと読まなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/ (母国語での試験なら) 言葉がわかった	
		63%	113	・ (冷蔵庫に) 保管	2.「びらん」	選択肢 2.「(胃ろうの周囲の) びらん」は「痛い」という意味だと思った/問題文読み取り/問題の内容や意味がわからなかった/日本語がわからない/日本語の語彙、文法、読解力の不足/ (母国語での試験なら) 言葉がわかった	
		30%	114		1.「ラクナ梗塞」 2.「くも膜下出血」 3.「慢性硬膜下血腫」 4.「正常圧水頭症」 5.「高次脳機能障害」	事例がわからなかったので、選択肢を選べなかった/問いの意味がわからなかった/選択肢の言葉がわからない/専門用語が難しい/漢字の理解不足/長い文章は理解が難しい/読解力の問題 (総合問題全部) /日本語の語彙、文法の理解不足/ゆっくり読めばわかる問題もあるが、読む時間がない/ (母国語の試験でも) ラクナ梗塞はわからない	
		39%	115	・ 賞味期限	1.「黙って処分する」 5.「保存容器」	事例がわからなかったので、選択肢を選べなかった/設問の意味が理解できない/問題を正しく解釈できなかった/選択肢の言葉がわからなかった/日本語の表現が難しい/長文と関連させず判断した/使用語彙が難しい/日本語がわからない/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/時間不足/ (母国語での試験を読んだが) 「賞味期限が 2 日前に切れた」の意味がわからなかった/ベトナム語の翻訳が「消費期限」の言葉になっていた	
		40%	116	・ 更新申請 ・ 作成する者として		設問文、「作成する者として」という表現がわからない/事例がわからなかった/選択肢を選べなかった/日本語の文章が読み取れない/しっかりと読まなかった/専門用語がわからない/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/時間不足/ (母国語での試験なら) 言葉がわかった	

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5	
総合問題	総合問題	48%	117	<ul style="list-style-type: none"> 家族構成 	2.「インシデント報告書」 3.「Eコマース」 4.「プロセスレコード」 5.「フェイスシート」	間違えて覚えていた/選択肢の言葉がわからなかった/事例を理解することが難しく、読み解けなかった/出題の意図を読み取れない/カタカナ表記で意味がわからない/ 日本語の語彙、文法、読解の理解不足 /時間不足/フェイスシートの意味がわからない。英語でFACE SHEETは顔を拭くシートのイメージ 問題文がわからなかった/長文がわからない/ 日本語の語彙、文法、読解の理解不足 /時間不足
		21%	<ul style="list-style-type: none"> 独自 (の事業) 社会福祉法人 (が行うこととした) 事業 	1.「公益事業」	選択肢 4.「自立相談支援事業」の「自立」は理解できるが、漢字の多さに惑わされる/ 問題・選択肢の意味がわからなかった /専門用語が難しい/長文がわからない/長文を読むことが、大変である/ 長い文章は理解が難しい /長文を読むことにつかれない/文章が長い、内容がわからなくなる/ 日本語の語彙、文法、読解の理解不足 /時間不足/ (母国語での試験でも) 選択肢の意味がわからなかった	
						44%
		55%	<ul style="list-style-type: none"> デイケア おびえながら電波を飛ばして監視しています 失敗談 	設問文「電波を飛ばしながら監視しているがわからない/設問文「最初の言葉かけ」、わかりません/言葉の意味が理解できない/言葉かけの言い回しが理解できなかった/長文がわからない/ 日本語の語彙、文法、読解の理解不足 /時間不足/読み落とし		
					48%	<ul style="list-style-type: none"> (治療に) 専念 無理せず 長所
		52%	<ul style="list-style-type: none"> 平衡感覚の低下 	3.「平衡感覚の低下」		
					45%	<ul style="list-style-type: none"> 介護給付費 補装具費 自立支援医療費 訓練等給付費 相談支援給付費

領域	科目	正答率	No.	不明語彙 一覧 (太字表記：複数回答だったもの)		誤答理由 抜粋 (太字表記：複数回答だったもの)
				設問文 (事例文含む)	選択肢 1～5	
総合問題	総合問題	41%	125	<p>・ 当面留意</p> <p>1. 「前あき (の衣類)」「かぶり (の衣類)」</p> <p>5. 「屈曲位」</p>	<p>長文を読むことにつかれる/文章が長いと、内容がわからなくなると/事例がわからなかったの で、選択肢を選べなかった/総合問題は文章量が多いので、理解しようとしても、いろいろ な考えが浮かび、混乱してしまう/日本語表現が難しく、理解できなかった/日本語の語 彙、文法、読解の理解不足/時間不足/しっかり読みまなかった/読み抜けがあった/(母国 語での試験なら)言葉が理解できた</p>	

令和 2 年度 老人保健健康増進等事業
外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業

－ 検討委員会 委員名簿 －

(敬称略、委員長を除き五十音順)

	お名前	所属・役職
委員長	川井 太加子	桃山学院大学 社会学部 学部長・教授
委員	井之上 芳雄	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 副会長
委員	大代 貴輝	全国社会福祉法人経営者協議会 福祉人材対策委員会 外国人介護人材特命チーム サブリーダー
委員	塚田 典子	日本大学商学部 教授
委員	永嶋 昌樹	公益社団法人日本介護福祉士会 常任理事
委員	橋本 由紀江	一般社団法人国際交流&日本語支援 Y 代表理事
委員	矢口 浩也	国際厚生事業団 国際・研修事業部 部長

－ 作業部会 委員名簿 －

(敬称略、部会長を除き五十音順)

	お名前	所属・役職
部会長	井之上 芳雄	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 副会長
委員	岡本 匡弘	京都保育福祉専門学院 学院長
委員	武井 幸一	公益社団法人 国際厚生事業団 外国人介護人材支援部 主任
委員	橋本 由紀江	一般社団法人国際交流&日本語支援 Y 代表理事
委員	八子 久美子	日本福祉教育専門学校 学科新設準備室長

オブザーバー : 厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室

事務局 : 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

厚生労働省 老人保健健康増進等事業「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業」

介護福祉士国家資格取得に向けた留学生指導についてのガイドライン

令和3年3月発行

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-3-10 藤和シティコープ御茶ノ水 2階

TEL：03-3830-0471 FAX：03-3830-0472